

SCREEN

Pr!nt the Difference

変わろう。印刷ビジネスのオンリーワンへ。



他社との違いをいかに生み出し、クライアントにどのような付加価値を提供できるか。これこそが、ますます激化する印刷ビジネスで生き残る大きなカギといえます。メディアテクノロジー・ジャパンは、最新の“One to Oneマーケティング”やサイン・ディスプレイ、ラベル・パッケージなどのニーズに応える多彩なPOD機をラインアップ。さらに、商業印刷においては高品質・高生産性を実現するCTPや、CTPとPODをトータルでコントロールし、自動化・省力化を実現するユニバーサルワークフロー「EQUIOS」など、違いを生み出すさまざまなソリューションをご提案しています。印刷ビジネスのオンリーワンへ。メディアテクノロジー・ジャパンが、印刷の新たな可能性をお届けします。

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン <http://www.mtjn.co.jp/>

VP営業統轄部/03(5621)8324 本社/03(5621)8266(代)

〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマトナ深川1号館1階

最新の印刷ソリューションを体験!
ホワイトカンパス MON-NAKA
www.screen-wcm.com

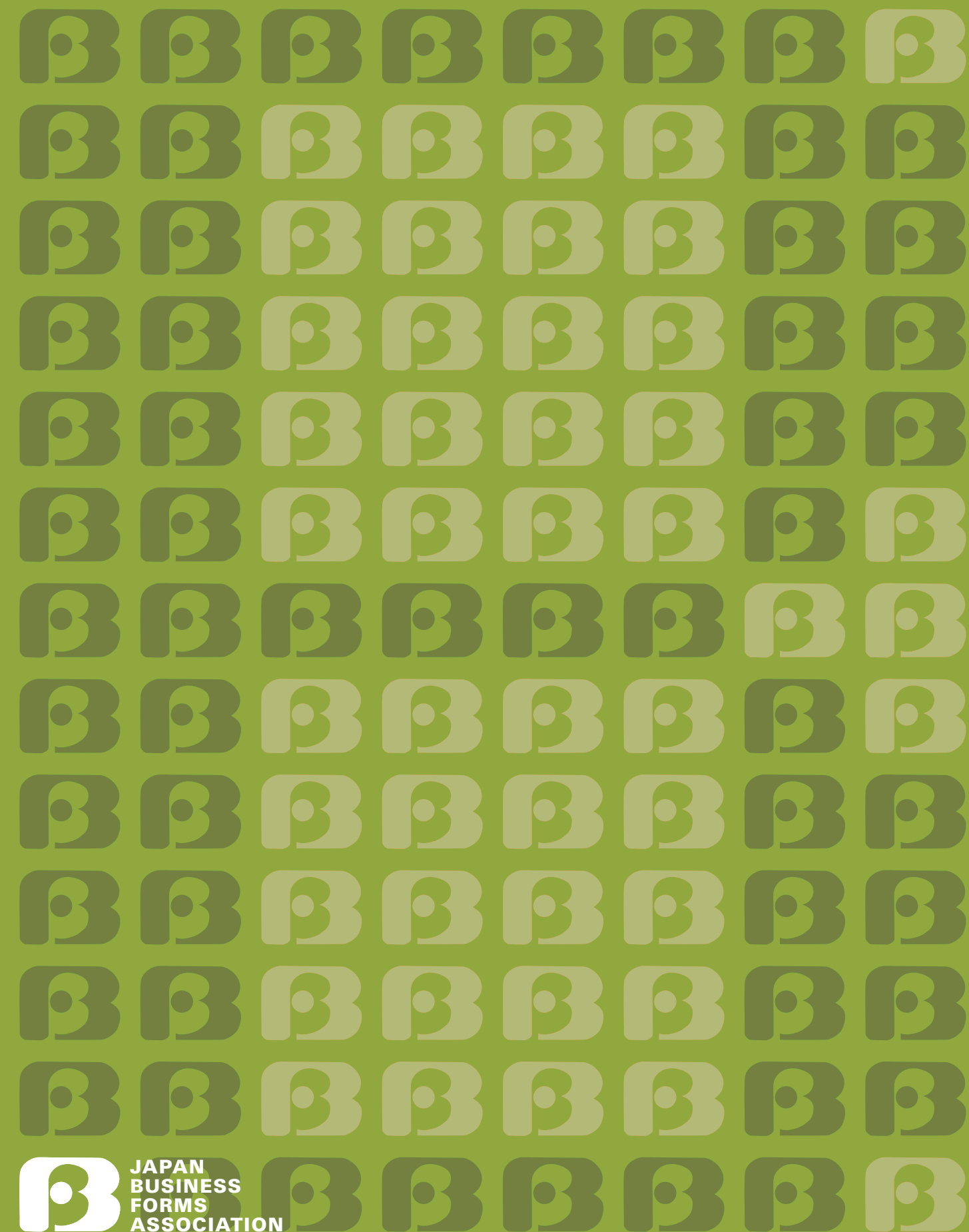


フォーム印刷

日本フォーム印刷工業連合会会報

2015.10 No.385

発行 日本フォーム印刷工業連合会
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館
TEL 03-3551-8615 FAX 03-3555-8466 URL <http://jbfa.jp>

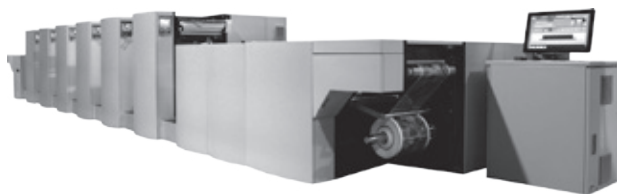


B JAPAN
BUSINESS
FORMS
ASSOCIATION

最高の製品とサービスを提供するために邁進します

MHL series

LED-UV スリープ式オフセット輪転機



	MHL13A	MHL18A
最大用紙幅	350mm	470mm
最大印刷幅	330mm	457mm
最高印刷速度	100m/min	
印刷天地長	15 ~ 24 吋	
用紙厚	12 ~ 300 μm	

MJP20MX-7000

フルカラーインクジェットプリンター



最大用紙幅	520.7mm
最大印刷幅	508mm
乾燥方式	熱風ローランド方式
用紙坪量	64 ~ 157G/ m ²
使用インク	水性顔料インク



株式会社 **ミヤコシ**

<http://www.miyakoshi.co.jp>

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼 1-13-5 TEL : 047-493-3854

高精度印刷品質インスペクションシステム

静止画像装置 PowerScope4000



- デジタルシステムにより外的干渉を除外
- 最大 18 倍の光学無段階ズーム
- デジタル・プログレッシブ・スキャンカメラ搭載
- コンパクトなデザインで安価なシステム
- 視野範囲(mm): 8.3 x 6.3 ~ 100 x 75
- オプション：バックストロボ、タッチスクリーン、スーパーズーム、セカンドモニター

100%欠点検査装置 Shark4000LEX



- 6K(グレースケール)又は4K ピクセル(カラー)のラインチップカメラ
- カメラ幅最大 600mm
- 最少欠点検出サイズ：0.035mm² (カメラタイプ、ウェブ速度等に依存します。)
- ジョブレポート機能により、欠点検査結果を PDF 形式で保存又は出力可能
- オプション：PDF 比較、カラーモニタリング、バーコードチェック、リポート長モニタリング

大阪本社 TEL 072-433-7100 / 東京オフィス TEL 03-5798-7805

e-mail: inquiry@bst-eltromat-japan.com URL: <http://bst-eltromat-japan.com>



B フォーム印刷

日本フォーム印刷工業連合会会報

2015.10 No.385

c o n t e n t s

2 日本フォーム印刷工業連合会 平成27年度第4回理事会議事要録

日本フォーム印刷工業連合会 平成27年度第5回理事会議事要録

8 トピックス

日本印刷産業連合会「設立30周年記念式典 2015年印刷文化典」を開催
第14回印刷産業環境優良工場表彰会長賞を受賞
夏季講演会「企業と消費者の協調・対話による新PL時代へ」を開催
セミナー「産業用インクジェットは『もはや潮流ではない。爆発だ!』」を開催
国際総合印刷機材展「IGAS 2015」に出展

20 工業会だより

北海道フォーム印刷工業会 理事会、親睦ゴルフコンペを開催

東北フォーム印刷工業会 役員会・納涼例会を開催

関東フォーム印刷工業会 平成27年度夏季懇親会を開催
第2回ボウリング大会を開催

中部フォーム印刷工業会 9月定例理事会・理事懇親会を開催

関西フォーム印刷工業会 大阪支部 第48回プチ勉強会・ビアパーティ、関西・京滋支部 合同納涼懇親会を開催

九州フォーム印刷工業会 平成27年度第2回理事会を開催

25 INFORMATION

北米印刷情報レポート (WhatTheyThink) より

MSPへの転換が鈍化し、本業の印刷事業へ回帰

ヒューレット・パカード社のEric Wiesner氏とは何者か?

米最大手R.R. Donnelley が業態変革のために3社に分社化

トランザクション印刷と郵便の不透明な未来

書籍紹介

JAGAT「印刷白書2015」を刊行

B to Bのためのマーケティングオートメーション

競争しない競争戦略 -消耗戦から脱する3つの選択



TOYOINK

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ

FD フォーム X シリーズ

東洋インキ株式会社

高機能材営業本部 UVインキ営業部

〒104-8378

東京都中央区京橋2-7-19 京橋イーストビル

Tel:03-3272-7693 Fax:03-3272-0666

www.toyoink.jp

- **高い硬化性** UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- **広い水幅** 水を上げてても良好な印刷適正を実現。
- **優れた転移性** 着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- **紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。**

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート H-17 BFシリーズ

特
徴

- ☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御
- ☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい
- ☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制



富士薬品工業株式会社

FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD

HP URL <http://www.fcfuji.co.jp>

本 社

〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10

TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205

大阪営業所

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1

TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

■日 時 平成27年7月9日(木) 午後1時30分

■場 所 日本印刷会館5階 501会議室

■出席者(22名)

櫻井会長、小谷副会長、小林副会長、林副会長、玉田常任理事、山本常任理事、石井常任理事、西常任理事、大門常任理事、入野常任理事、溝口常任理事、太田常任理事、和田常任理事、福田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、坊野理事、朝日理事、岡田理事、渡辺理事、千葉監事、山口(専務理事事務局)

「櫻井会長挨拶骨子」

今日は理事会に参加いただきありがとうございます。私が最近感じているのは、安倍政権になっているいろいろな変革が起きているのは間違いないんだけど、世界標準というか、そういう動きが彼の要求していることなのかなというように感じています。すよ。というのは、会計基準などを見ても、アイファース(IFRS)とか、コーポレートガバナンスコードとか、いろいろな説明責任をきちんと果たすとかいう課題は、大体欧米が発元元です。それをやるだけでもすごいエネルギーが必要で、いろいろとそういう要求に応えていくと、様々な検討をしなければいけないことが非常に多くなってきていると感じています。日本の産業の活力とは何だったのかというと、中小の企業がすごいプライドを持って仕事をやっていた。そういう雰囲気はきちんと維持しなければいけないだろうな、と私は思っているんです。我々は、いろいろな問題に対して、もっともっと革新的にいろいろな物事を捉え、トライして突っ込んでいきましょうよ。そうじゃないと、標準化の波に飲み込まれてしまって、いつの間にか書類ばかり書いていることになりかねない。そのような思いがあって、今、非常に苦慮している最中です。

7月初旬には産業用インクジェットに関するセミナーがあり、インクジェットがこれからは爆発する



櫻井会長

というような話があって、200名入る会場がいっぱいになったということはいいのですが、会員はどのくらいそこに参加したかという、あまり参加していなくて、圧倒的に他の業界の人のほうが多いというのは、私自身は非常に残念だなと思っています。というのはデジタル印刷というのはフォーム工連の手の内にある一つの武器です。その勉強会に他のところがいっぱい来ていて、会員が少ないというのはちょっと寂しいなと思っています。あらゆるものは、コミュニケーションの手段がデジタル化になっている。そういう中であって、ますますデジタル化が進んできた。そうすると今度はコンテンツの勝負になってくる。しかし、印刷の価値はほとんど変わらないので、単価の競争になってくるわけです。コンテンツで頑張れるところは頑張るけれども、頑張れないところは印刷価格で頑張ってしまう。そんなことをやっていると、どんどん自分たちが自分たちの首を締めるようなことになる可能性がある、非常に怖い話だなと思っています。工連の会員企業のノウハウを軽く見ている会社が多いのかどうか知らないんですが、他のところが簡単にできると思ったら大間違いだとは思いますが、フォーム工連の各社が取り組んでいる分野に、大勢の企業が出てくるというのが現状、現実だろうと思います。それを何とか頑張っていかなければいけない。

先ほどの新しいいろいろな動き、潮流に対して対応していかなければいけないというのはわかるので

すが、印刷業界、日印産連自体も今、新しいグランドデザインをつくって、それを発信していこうとプロジェクトを組んでいるわけです。各会員にご無理を言って、各社から人を出していただいて、委員会やワーキンググループを開いたりして進めております。果たしてグランドデザインなんてできるのかな、というふうに思いつつも、やらざるを得ないと思う。今日の話もいろいろ大変な話が多いのですが、仲良く一生懸命やって行きましょう。

1 委員会報告

❖業務委員会

- ・6月度会計報告
- ・平成27年度夏季講演会について
- ・日印産連派遣委員・部員・WG担当について
- ・“IGAS 2015”出展ブースについて

❖国際委員会

- ・米国印刷事情レポートについて

❖環境委員会

- ・環境委員会開催報告
- ・「フロン排出抑制法」施行について

❖技術委員会

- ・技術委員会開催報告
- ・国際委員との共催セミナー産業用インクジェットは「もはや波ではない、爆発だ！」

❖資材委員会

- ・7月度用紙事情について

2 日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

- (1) グローバルコンパクトについて
- (2) 印刷用語集Web版リンクについて

3 各フォーム印刷工業会からの報告

関東フォーム印刷工業会報告(林会長)

来月の8月20日に、先ほどご説明がありましたように、夏季講演会のあとに毎年開催している夏季懇親会を、関東フォームが主催して開催いたします。今回は、どういうわけか、メーカーや代理店さんから早々とお断りのFAXが入っているようですが、参加をちょっと促して、例年どおり、にぎやかにやっていきたいと思っています。理事会や委員会に参加していただいている会員の皆さまは、それぞれ活発にいろいろと活動していただいているのですが、他の会員企業さんは、表舞台に立っていろいろな活

動をするというのはなかなかできていない。せっかく関東フォームとして会員になっている方々が約50社いらっしゃる、最低でも5割以上とか6割くらいの会員の皆さんに、いろいろな形でフォーム工連の事業に参加していただけるような体制に持っていきたい。そういう意味でも、いろいろと活動をやっていききたいと思っています。今年の秋には“IGAS”のほうに、フォーム工連の50周年事業として、関東フォームの各社に出展していただきます。また、“IGAS”出展の幹事役として事務局をサポートさせていただきますので、出展についてのご協力のほどをよろしくお願いいたします。

北海道フォーム印刷工業会報告(渡辺副会長)

西会長が欠席なものですから、私のほうから代理でご報告申し上げます。北海道の活動内容としては、8月下旬にゴルフコンペが予定されています。例年、そんなに人数は多くないのですが、楽しくやっておりますので、良き交流ができればと思います。

それからもう一点、トピックスといたしましては、北海道の紙の代理店の大手として、大丸藤井と日東という2社があるのですが、2月に経営統合が発表され、その後進んでいなかったのですが、6月から経営統合がスタートし始めたようです。紙の購買先が1社減るということで、会員各社は、ちょっと身構えているという状況です。

東北フォーム印刷工業会報告(大門会長)

東北では、このあと8月29日に仙台で納涼例会を予定しております。先週仙台で全印工連関連の「SOPTECとうほく2015」というイベントで、全印工連の臼田副会長のセミナーがありました。全印工連の会員であっても、フォーム印刷に取り組んでいる会社はカスタマイズされている。そういった土壌から今、全国でもいろいろなことに取り組んでいるという話をされておりました。

中部フォーム印刷工業会報告(入野会長)

第1回理事会とゴルフコンペを開催いたしました。理事会の議案としては少し先になりますが、毎年11月に実施しております研修会の講師の選定について検討しました。また、中部からも功労賞と振興賞について推薦しようという話もあったのですが、該当者なしということになりました。

関西フォーム印刷工業会報告(溝口会長)

6月25日に大阪支部で、例会およびプチ勉強会を開催しました。このところ毎回インクジェットの各メーカーさんに来ていただき、お話をいただいております。今回はリコー様に来ていただき、今後のビ



ビジネス展開についてお聞きいたしました。次のプチ勉強会は8月27日に開催を予定し、同じくインクジェットということで、メディアテクノロジージャパン様にご講演していただくようになっているようです。それから7月6日に、大阪支部を中心として特別会員様もお呼びして、約65名が参加して、大阪駅の近くのグランフロンオオサカでビアパーティーを開催いたしました。

中四国フォーム印刷工業会報告（太田会長）

6月、7月は特に行事はないのですが、中四国フォーム印刷工業会の中核企業であります産興さんが、7月1日から社名をアドプレックスに変えられて活動されています。なお、同社は水性フレキソ印刷の専用工場を建設中で、来年4月から食品パッケージ等の印刷・加工事業を行う予定です。

最後に小谷副会長より閉会挨拶があった。

「小谷副会長挨拶骨子」

本日は、梅雨のうっとうしい中、お集まりいただきましてありがとうございます。最初に櫻井会長からありましたように、世の中が混沌としてはいるのですが、印刷業界を良くしていこうということです。ので、よろしくお願いいたします。

また、専務理事のほうから発表がありました。

9月の印刷の日に、私を功労賞ということで決めていただいたわけですが、私自身としては、功労賞というのは、功労された方がお受けになるということで、功労もそれほどしていないし、まだまだこれから頑張ろう、頑張らなければいけないと思っておりますので、固く固辞したんです。そうしましたら、大変強行に櫻井会長ほか副会長の方々から、受けるかやめるかどっちかにしろと言われまして！　そこまで言うのであれば、大変光栄なことだとも思っておりますし、名誉なことでもありますので、これからも皆さんとご一緒に業界発展のために、これを糧に頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今回は9月16日ということで、印刷文化典の日になるわけですが、暑い夏を乗り越えて、少しは涼しくなった9月に、また皆さん方とお目にかかることを楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

次 回 平成27年度第5回理事会
開催日 平成27年9月16日（水）
時 間 午後1時30分より
場 所 ホテルニューオータニ東京 ザ・メイン16階「ラピスⅡ」
を確認して閉会となった。



は嫌ですので、最後のパーティまで皆さん残ってください。やっぱりフォーム工連あつての日印産連ですから、パーティーテーブルのど真ん中を占拠するというのが恒例ですので、よろしくお願いします。

それとあと、印刷文化典の式典の中で表彰される方をご紹介したいと思います。

まず、印刷功労賞にフォーム工連副会長の小谷達雄様、そして印刷振興賞には東北フォーム印刷工業会の元会長を務めていただいた佐久間信幸様、中四国フォーム印刷工業会の太田真義様、DPS関連の契約のひな形をまとめていただいた鈴木茂樹様が受賞されます。

まとめて、おめでとうございます。（拍手）

また、印刷産業環境優良工場表彰では東海トッパン・フォームズが日印産連会長賞、今年から始まった小規模事業所振興部門では、木万屋商会様が日印産連会長賞を受賞されます。

同じく、おめでとうございます。（拍手）

先日、“IGAS”の開会式にいつてまいりました。非常に好評で、初日、入場に約30分待ちくらいの行列をつくって続々ご見学にいらっしゃいました。

海外I Rではフォーム印刷企業のできることを説明しますと、非常に評価が高いんです。ぜひとも、その気持ちというか、そういうような機械を我々は扱っているのです。どういう意味かといいますと、非常にパーソナルなメディアで、一通一通違うものをつくっていくという技術。その管理手法をそれぞれの会社が、いろいろ工夫なさって確立していると思うのです。それは日印産連の中でも特殊な技術で、我々が非常に誇るべき技術であると思っています。そういう評価が海外でもありますので、ぜひとも新しい機械を見るということも必要ですし、新しい開発をするということも必要ですし、そういう自分たちの強みを生かすもので、次のステップに我々はいきたいなと思っていますので、よろしくお願いします。

100年問題というのがあります。昭和100年というと、2025年が昭和100年なんです。75歳以上の人が2014年比12.5%だったのが、2025年の昭和100年には75歳以上が18%になります。65歳以上は25.9%が30%。そうすると日本の人口は、65歳以上が大体48%を占める。こういう経験は日本はないのです。我々の出番はそこなんです。これがヒントですから。

なぞなぞごっこしているわけではないのですが、ここにフォーム印刷工業会のビジネスが生まれてくる。一人ひとり、目が悪い人とか、いろいろな事情があるわけです。そういう人に手を変え品を変え、やろうと思えば我々一通一通文字の級数（文字の大きさ）を変えることも可能ですよね。ですから、データがあつて、読み手のことを意識して印刷物をつくるといったら、世界は泣いて喜びますよ。そのために級数を違えますとか、絵柄のサイズも違えますとかね。

そんなようなことを考えていまして、昭和100年問題というのは、ものすごい大きな問題になるだろうなと思います。ぜひともそれを乗り越えていく、それが我々フォーム印刷工業会の使命であると思っています。頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

簡単ですが、以上でご挨拶とします。どうもありがとうございました。

小谷達雄氏（（株）イセトー代表取締役会長）からの受賞お礼

大変栄誉ある賞を皆様のお陰でいただくことになりました。また10名の功労賞受賞者を代表して、賞状をいただくことになりました。いつも櫻井会長がおっしゃっておられますが、フォーム工連あつての日印産連と思うようにしたいと思います。ただ、私は人の前に立つとか、話すとかいうことが大変苦手で、前に出て上がらないようにしたいと思います。

本当に今日はありがとうございます。

佐久間信幸氏（（株）日進堂印刷所代表取締役社長）からの受賞お礼

この度は皆様のご推薦を賜りまして、印刷振興賞をいただくことになりました。ありがとうございます。受賞者として恥じないように、これからも精進を続けていくつもりですし、皆様には今後ともご指導いただきますよに、お願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

日本フォーム印刷工業連合会 平成27年度 第5回理事会議事録	
■日 時	平成27年9月16日（水）午後2時30分
■場 所	ホテルニューオータニ「ラピスⅡ」
■出席者（27名）	櫻井会長、小谷副会長、小林副会長、玉田常任理事、山本常任理事、松川常任理事、石井常任理事、西常任理事、大門常任理事、入野常任理事、溝口常任理事、太田常任理事、和田常任理事、福田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、朝日理事、岡田理事、渡辺理事、西村理事、瀧本理事、西川監事、千葉監事、岡田会員、佐久間会員、鈴木会員、山口（専務理事事務局）

議 題 ①委員会報告

②日本印刷産業連合会等関連報告

③各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、櫻井会長の開会挨拶があり議事に入った。

【櫻井会長挨拶骨子】

これから第5回の理事会を開催したいと思います。

今、専務理事から印刷文化典と懇親会が開催されるとの案内がありましたが、毎回懇親会で私は最後までいなければいけないので、寂しい思いをするの



櫻井会長

■ **太田真義氏**（セイコービジネス(株)専務取締役）
からの受賞お礼
日印産連の30周年という節目の時に、この賞をいただきまして、本当にありがとうございます。役員の指導のもとに一昨年は、東中国と西中国との統合、昨年は中国と四国の統合を行って、継続した活動を行ってきたことを評価されたと聞いております。今後とも粘り強さと行動力で活動して行きたいと思っています。

本当にありがとうございました。

■ **鈴木茂樹氏**（トッパン・フォームズ(株)総務本部 CSR推進部 担当部長）からの受賞お礼
ご紹介いただきましたトッパン・フォームズの鈴木と申します。私の活動を評価していただいたと思って、大変光栄に思っております。2003年当時にデータプリントサービスの業務について、契約書のひな型を策定しなければならないとの依頼があり、契約関係に携わらせていただいております。その後、個人情報保護法の対応とか、JIS規格の制定等がありましたので、それに合わせて契約書の改定等を行っております。さらに、契約書に伴う解説書も併せて作成いたしました。この契約書のひな型は、フォーム工連会員だけではなく、上部団体の日印産連にも提供させていただいております。この活動は私だけではなく、当時会員各社の様々な方のご協力をいただいております。その方々にも感謝を申し上げたく思います。

ありがとうございました。

1 委員会報告

❖業務委員会

- ・7月・8月度会計報告
- ・日印産連委員会・部会・WG開催について
- ・平成27年度夏季講演会について
- ・ケースメソッド研修会開催について
- ・印刷用語集Web版リンクについて

❖国際委員会

- ・米国印刷事情レポートについて
- ・“Drupa 2016”視察ツアーについて
- ・PODi 共催セミナー企画について

❖環境委員会

- ・環境委員会開催報告
- ・GP工場認定打ち合わせについて

❖技術委員会

- ・技術委員会開催報告

- ・Excel Power Pivot 活用の実践講座について
- ・施設見学会ツアーについて
- ・地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助対象カテゴリーの件

❖市場調査委員会

- ・市場調査委員会開催報告
- ・市場動向セミナー企画について

❖資材委員会

- ・9月度用紙事情について

2 日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。
（1）平成27年度税制改正要望について
（2）夏季講演会・関東フォーム夏季懇親会掲載記事
（3）産業用インクジェットは「もはや潮流ではない。爆発だ！」掲載記事4

3 各フォーム印刷工業会からの報告

北海道フォーム印刷工業会報告（西会長）

先月の活動としては、8月3日、通常理事会を9社から9名が参加して行いました。8月25日には、これも毎年恒例なのですが、北海道フォーム印刷工業会のゴルフコンペに、14社から16名が参加されて開催しました。活動に関しては以上です。

東北フォーム印刷工業会報告（大門会長）

8月29日(土) 毎年恒例の納涼例会を仙台で、J1のベガルタ仙台のスタジアムのVIPルームを借りまして開催いたしました。非常に良い懇親ができたのではないかと思います。前会長の佐久間社長は式典準備のためにご退席されましたが、佐久間社長のご尊父様の葬儀には、各地区の会長様や、日本フォーム工連の会長様からも生花や弔電をいただきました。私からも御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

中部フォーム印刷工業会報告（入野会長）

8月は休会となっております活動しておりません。明日、中部の懇親会を兼ねた理事会を開催する予定になっています。

関西フォーム印刷工業会報告（溝口会長）

“IGAS 2015”へは、関西からも3社が参加させていただきましたが、特に、この場をお借りしまして、関東フォーム工様の理事の会社様、あるいは委員の会社様から全力でいろいろご支援、ご協力いただきまして、まずは感謝させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

関西の報告に移りまして、8月20日には、関西として合同納涼懇親会という形を京都で、15名ほど参加していただきまして、楽しく過ごさせていただきました。それから8月27日に大阪支部の例会の中では、毎回実施しておりますプチ勉強会を、今回はメディアテクノロジージャパン様に、カラーインクジェットの活用事例ということで、20社から20数名の方が参加していただいております。

それから、11月13日に、関西でデジタル印刷セミナーというものを行いたいと考えておりまして、先ほどからお話が出ています、PODi JAPANの亀井様はじめ、ベンダー様から3社ほど来ていただいて、「デジタル印刷の印刷業界の成長戦略」という題で、関西地区でデジタルについての本格的なセミナー（勉強会）を開かせていただきたいので、「日本フォーム工連関西版デジタル印刷セミナー」という形で、日本フォーム工連からの支援をいただきたく思います。

あと、11月のその前後ですが、10日に関西で合同ゴルフコンペを開かせていただきます。関西からのご報告は以上でございます。

九州フォーム印刷工業会報告（和田会長）

いよいよ来月の10月15日、鹿児島での理事会を迎えるにあたりまして、今準備をしておりますが、多少皆さんはちょっと心配なところがあると思います。桜島のことですが、桜島の活動は、止まってはいませんが、いつものように地下の爆発はどンドンしています。逆にお隣の熊本の阿蘇山がちょっと爆発してしまって、そっちのほう心配になっています。ただ、地下のマグマというか、日本列島、結構活動しているんだということがわかりましたので、鹿児島の桜島に関してはかなり安全な状態でございますので、気になさらないでいただきたいと思います。九州の自然を満喫していただければなと思っていますし、おいしいシャンパン、ワイン等もかなりそろえました。焼酎もいっぱいありますし、時間はタイトではなくて、逆にルーズにしています。温泉もしっかり、ゆっくり楽しんでいただいて、おいしいものを飲んで食べていただいて、元気のある方は、天文館という繁華街が鹿児島にはありますので、そこでもお店をいくつかご紹介させていただきたいと思っています。15、16日には、日頃の疲れを取るためにもゆっくりしていただきたいなと思っていますので、九州の会員でしっかり「おもてなし」をさせていただきますと思います。お待ちしておりますので、よろしくお願いします。

最後に小林副会長より閉会挨拶があった。
「**小林副会長挨拶骨子**」
本日はご出席ありがとうございました。
今日は、本当にお忙しい中をお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今日は沢山の人数がお集まりだと思いますが、今から日印産連の「印刷文化典」ということで、ぜひ全員出席していただいて、その後の懇親会には必ず出ていただいて、会長のほうからもありましたが、いるぞ、という空気を出せるといいかなと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

私も“IGAS”に行ってみいまして、いろいろ見てきたんですが、正直いって、今一番メジャーになっているのは中国で、中国にどうしてもフォーカスが当てられているように思いました。しかし、日系のメーカーもいっぱいありますし、皆さんいろいろな新しい技術を出しているな、ということを感じました。それ以上に、先ほどお話にありましたが、“DRUPA”の準備がずいぶん進んでいて、何となく“IGAS”の位置付けはなんだろうなという感じが正直しました。ただ、いろいろな技術がずいぶん進んできたなという印象で、とにかく画素数が増えて非常に良くなってきて、いろいろな字がきれいに出ようになったな、というのが正直なフィーリングです。そういった新しい技術がどンドン出て行く中で、我々は同じことをずっとやり続けるというわけには、なかなかいかないので、各社がいろいろな技術をみんなで競いながら、この業界を盛り上げていけたらいいなと思っています。

それから、ここに新聞もございますが、10月からマイナンバーがスタートしていきます。いろいろこれまであったと思いますが、様々な取り組みが、これから結構長期的に進むだろうなと思いますので、いろいろなところで情報共有ができればいいなと思います。

いま和田さんの方からもありましたが、来月の10月15日は、「持回り理事会」を九州で行いますので、ぜひ、そこに皆さんに参加していただいて、いろいろな情報を共有することができればいいなと思います。本日はどうもありがとうございました。

次 回	平成27年度第6回理事会 (持回り理事会)
開催日	平成27年10月15日(木) 午後4時から
会 場	城山観光ホテル(鹿児島市) 4階 ガレリア

を確認して閉会となった。

日本印刷産業連合会

「設立30周年記念式典2015年印刷文化典」を開催

印刷功労賞に小谷 達雄氏 印刷振興賞に佐久間信幸氏、太田真義氏、鈴木茂樹氏

第14回印刷産業環境優良工場表彰

日本印刷産業連合会会長賞 [一般部門] トッパン・フォームズ東海株式会社 静岡工場
[小規模事業所振興部門] 株式会社木万屋商会 市川工場

(一社)日本印刷産業連合会(稲木歳明会長)は9月16日、東京のホテルニューオータニにおいて、10団体会員をはじめ、各界からの来賓、関連企業から約700名が出席され、「設立30周年記念式典 2015年印刷文化典」を実施した。記念式典の冒頭、主催者を代表して挨拶した稲木会長は、「社会・経済は大きく変化し、印刷産業を取り巻く環境も激変した」と、過去30年を振り返った上で、設立30周年を記念して日印産連が策定した「グランドデザイン」について話された。「従来の活動や組織、予算などを抜本的に見直し、役割や活動 テーマを再構築することを目的としている」と、その骨子を説明した上で、今年を「グランドデザイン元年」とし、「数年度にわたる事業計画を着実に遂行し、『印刷産業を未来にリードする団体』を目指し活動を展開していく」との方針を示した。

表彰に移り、日印産連表彰では印刷文化賞を5氏がそれぞれ表彰された。印刷功労賞14氏を代表して日本フォーム印刷工業連合会副会長の小谷達雄氏((株)イセトー代表取締役会長)、印刷振興賞22氏を代表して渡部俊行氏(松栄印刷(有)代表取締役)と松本峰包氏(松本製本(株)代表取締役)が受賞された。日本フォーム印刷工業連合会からは、佐久間信幸氏



印刷功労賞 小谷達雄氏

((株)日進堂印刷所代表取締役社長)、太田真義氏(セイコービジネス(株)専務取締役)、鈴木茂樹氏(トッパン・フォームズ(株)総務本部CSR推進部担当部長)が印刷振興賞を受賞された。

特別賞として全日本印刷工業組合連合会、広島県印刷工業組合福山支部、山口県印刷工業組合青年部の3団体と、第43回技能五輪国際大会「印刷職種」日本代表選手の堀洗太氏((株)トッパンコミュニケーションプロダクツ 札幌工場)に、稲木会長から賞状と記念品が贈られた。

第14回印刷産業環境優良工場表彰では、経済産業大臣賞を(株)笠間製本印刷、経済産業省商務情報政策局長賞を(株)光邦 新座工場と池田印刷(株)京浜島工場が受賞され、高橋淳子 経済産業省メディア・コンテンツ課長補佐から賞状と記念品が贈られた。さらに、日本印刷産業連合会会長賞5工場、特別賞2工場、奨励賞11工場((株)ローヤル企画 真岡工場が代表受賞)に賞状が贈られた。

日本フォーム印刷連合会からは一般部門として日本印刷産業連合会会長賞をトッパン・フォームズ東海(株)静岡工場が受賞され、小規模事業所振興部門でも、(株)木万屋商会 市川工場が日本印刷産業連合会会長賞を受賞された。

印刷振興賞
佐久間信幸氏(右)



印刷振興賞 太田真義氏(左) 鈴木茂樹氏(中)

「一般部門」会長賞
トッパン・フォームズ
東海(株)静岡工場



「小規模事業所振興部門」会長賞
(株)木万屋商会 市川工場



印刷功労賞



小谷達雄氏

日本フォーム印刷工業連合会
副会長

株式会社イセトー
代表取締役 会長

推薦理由

平成9年に日本フォーム印刷工業連合会の理事に就任し、常任理事及び副会長を経て、平成22年に日本フォーム印刷工業連合会会長に就任。常に団体活動の先頭に立って業界の振興発展に大きな役割を果たした。企業においては、平成9年に代表取締役社長に就任、現在は代表取締役会長の要職にある。また同社は欧州の主要ビジネスフォーム企業が設立されたeFORMAに加盟し、欧州企業との関係も深く、欧州の印刷事情についての情報提供を通して団体活動に活かされている。

印刷功労賞を受賞して

この度は、日本印刷産業連合会より栄誉ある印刷功労賞をいただき、誠にありがとうございます。ご推

薦くださいました櫻井会長をはじめ、日本フォーム印刷工業連合会関係者の皆さまには厚く御礼を申し上げます。

また、平成8年に日本フォーム印刷工業連合会の理事を拝命し、今日まで、常任理事、副会長、会長と役職を務めることができましたことは、ひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。

この間、パソコン・携帯電話・スマートフォンの普及、通信技術の発達により、社会環境が大きく変化してまいりました。デジタル化は、私たちの業界を取り巻く市場環境にも大きな影響を与え、顧客ニーズの複雑化、多様化が続いています。また、本年10月よりマイナンバーが通知されます。平成28年1月以降には、様々な手続きに個人番号が必要になり、社会インフラのデジタル化が否応なしに、身近なものとなってまいります。我々も業界が担う役割を見つめなおし、新たな方向性を見出すことが求められています。

これからも、今回の受賞を励みとして、日本フォーム印刷工業連合会の発展に寄与できるよう微力ながら努力してまいりたいと思います。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

印刷振興賞



佐久間信幸氏

元日本フォーム印刷工業連合会
常任理事

元東北フォーム印刷工業会会長
株式会社日進堂印刷所
代表取締役社長

推薦理由

日本フォーム印刷工業連合会の理事及び常任理事を10年間勤められ、平成20年より東北フォーム印刷工業会会長に就任し、同フォーム印刷工業会の創立40周年式典事業をはじめ、会の発展に寄与された。また東日本大震災の被災を受けながら、被災地の支援活動に積極的に取り組み続けており、その業績は多大である。

印刷振興賞を受賞して

この度、日本フォーム印刷工業連合会の推薦を受け、日本印刷産業連合会から「印刷振興賞」を受賞いたしました。ご推薦いただきました日本フォーム印刷工業連合会の理事の皆様をはじめ、日頃よりご協力いただいております東北フォーム印刷工業会の大門会長、理事・会員の皆様に心よりの感謝を申し上げます。

私は、平成18年に東北フォーム印刷工業会の理事に、平成22年には会長に就任いたしました。また同時期に日本フォーム工連の常任理事も務めさせていただきました。このような諸先輩方に学ばせていただく機会を与えていただきましたことは、私にとりましてとても幸運なことでした。

またその一方で、会長に就任した翌年の平成23年3月に「東日本大震災」が発生し、会員企業各社にも甚大な被害が発生するなど、激動の時期も経験いたしました。この時期、日本フォーム工連はじめ全国の工業会様から多くのご支援をいただきましたことは、各社が復興への道を歩き始めるための大きな力となりました。

また、翌年の平成24年6月には、「東北フォーム印刷工業会40周年記念式典」を開催いたしました。全国から多くの皆様にご出席いただき、ここでも皆様からお祝いと復興へ向けての励ましのお言葉を数多く頂戴し、とても勇気づけられました。

その年の10月には福島県の裏磐梯で日本フォーム工連の持回り理事会が開催され、櫻井会長はじめ全国の理事・会員の皆様と大いに親交を深めることができました。

平成26年5月に会長を退任するまでの4年間、このようにとても充実した日々を過ごし務め上げることができたのは、東北の理事・会員の皆様および日本フォーム工連及び全国の工業会の皆様のお陰です。改めて感謝申しあげます。

さて、来年の10月23日には、福島県で、「全日本印刷文化典ふくしま大会」を開催する運びとなりました。全国から1,000名近い皆様が福島へいらっしゃる予定です。私も、福島県印刷工業組合理事長として、皆様をお迎えする準備を進めているところでございます。全国の工業会の皆様にお会いし、これまでの日々と絆に改めて感謝をお伝えすることをとても楽しみにしております。

今後も、東北の一理事として、大変微力ではございますが、会及び日本フォーム工連の発展に努めてまいり所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



太田真義氏

日本フォーム印刷工業連合会
常任理事

中四国フォーム印刷工業会
会長
セイコービジネス株式会社
専務取締役

推薦理由

平成25年、東中国地区と西中国地区を統合して、中国フォーム印刷工業会を発足させ、同会の会長に就任。更に四国地区を活性化させるために四国地区とも統合させ、中四国フォーム印刷工業会を設立させた。企業においては工場長として、印刷産業環境優良工場の受賞に貢献されるとともに、第1回目のグリーンプリンティング認定工場として認定を受け、印刷産業界に貢献された。

印刷振興賞を受賞して

この度は日印産連の印刷振興賞をいただき、誠にありがとうございました。

ご推薦いただきました櫻井会長をはじめ、日印産連の皆様 中四国の会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成24年6月から当時、産興(株)(現在(株)アドブレックス)の灘会長から、東中国(広島、山口、島根エリア)フォーム工業会の会長をバトンタッチされました。本来であれば平成22年6月から会長交代でしたが、東中国地域の経済状況の悪化もあり、会長選考が難航し、2年間代行をされた後ということで、会の運営が非常に難しい時期だったと思います。

まずは、会員の皆様に多く出席してもらうこと、会は楽しい会であること、この2点を重点に置いて運営していきました。そのために年末の忘年会を兼ねた会合を増やし、その場で来年のスケジュールを配布することで、出席率は90%以上となりました。

次に楽しい会とするために、従来の懇親会でのカラオケ大会の前に、女性講師による講演会を開催し、懇親会にも参加してもらうことにより、男性社会であった会が華やかな会になったと思います。

特に、支店を出されている赤坂印刷(株)、N T T印刷(株)、(株)イセトー、小林クリエイト(株)、トッパンフォームズ(株)、(株)エヌユーエスの支店長様には100%出席していただき本当に感謝しております。

平成25年6月からは西中国(岡山、鳥取エリア)フォーム工業会と合併することになりましたが、特に西尾総合印刷(株)の田口専務様には、積極的に会に参加していただきました。

平成26年6月からは四国(香川、愛媛、徳島、高知エリア)フォーム工業会と合併することになりましたが、(株)エスビーエフ小島社長、(株)中村両栄舎印刷所 中村会長、サンエイ(株)香川社長には積極的に協力していただいて現在に至っております。

今後はアグレッシブな大阪、九州工業会の会長様と協力して、広域でビジネス交流を盛んにしていきたいと思っています。

今回の驚くべきプレゼントに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



鈴木茂樹氏

日本フォーム印刷工業連合会
元個人情報保護法研究会
契約書雛形改訂分科会 座長
トッパン・フォームズ株式会社
総務本部CSR推進部 担当部長

推薦理由

個人情報保護法研究会の契約書雛形改訂分科会において、契約書雛形改訂の第2版及び第3版を策定するとともに、改定版解説書を発行してデータプリント業務に関する契約事項の基礎を築いた。さらに、日本印刷産業連合会の個人情報保護研究会及びワーキンググループ委員として活躍中です。

印刷振興賞を受賞して

日本フォーム印刷工業連合会の推薦により印刷振興賞を賜わり、感激と感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

私は、2003年に依頼に基づき、フォーム工連加盟会社用のデータプリント等に関する、業務委託契約のひな型を策定したときから、フォーム工業連合会の活動に関わるようになりました。

その後、個人情報保護法、経産省のガイドラインに対応すべく、2005年に個人情報保護法研究会契約書雛型改定分科会の座長として、契約書雛型を改定いたしました。2008年には、改定第3版とともに、契約条文解説書を策定させていただきました。

得意先と契約書を取り交わして業務を進めるという文化が、どちらかというと希薄な業界ということもあり、得意先から一方的な内容の契約を押し付けられたり、この業務に合っていない契約を取り交わしてしまったりということを防ぎたいという思いがありました。

また、何故このような条文が規定されているかを理解していただくとともに、契約交渉時に役立つ解説と修正用条文が必要との思いで、解説書を策定させていただきました。フォーム工連に加盟していて良かったと会員企業の皆様に思っただけであれば幸いです。

なお、現在は、フォーム工連の代表として、日印産連の情報セキュリティ部会と個人情報保護研究会WGの委員として参画しております。微力ながら会員企業の皆様のお役にたてるように頑張っていきたいと思っております。

第 14 回印刷産業環境優良工場表彰会長賞を受賞

日本印刷産業連合会 会長賞 トッパン・フォームズ東海(株) 静岡工場

日本印刷産業連合会 会長賞を受賞して

この度は印刷産業環境優良工場として、「日本印刷産業連合会会長賞」という栄えある賞を賜り、工場従業員一同、改めて身の引き締まる思いをしております。これを新たなスタートラインとして、更に研鑽を積み、地球環境に貢献する工場を目指してまいります。

当工場の創業は1979年10月1日であり、もうすぐ創立37年となる歴史ある工場です。最新の環境設備はありませんが、地道な従業員の環境活動が受賞につながったことに、大きな意義があったと感じております。

当工場の主な製造品種は一般伝票（運輸伝票）、ラベル・タックフォーム（E Xフォーム＝擬似1枚運輸伝票）、P O S T E X（圧着ハガキ）、O C R・OMR製品です。

創業以来、宅配業界の成長と共に印刷量が増加し、現状では生産量の7割が宅配関連フォームとなっております。

当工場には、創業の地である浜松地方の伝統である"やらまいか精神"が生きづいており、もの作りに当たって創意工夫を発揮し、改善を重ねてまいりました。改善はお客様のために行うのだという職場風土、改善することでその人も成長する、それが人づくりなのだという、改善に燃える企業風土を大事にしております。

環境マネジメントシステム I S O 1 4 0 0 1 の認証は、弊社の名古屋工場で2004年に先行取得し、2007年には静岡工場を含む弊社4工場統合で取得しております。環境方針を基に、環境目的・目標を定め継続的な改善活動を推進しております。

改善活動（小集団活動）が活発であり、トッパンフォームズグループのチャレンジ21サークル発表会では、過去6年間（12大会）で最優秀賞を7回、優秀賞を4回受賞しています。効率を改善することは、時間当りの生産量を上げることによる電力削減（C O₂排出改善）、損紙の改善等につながり、更にトッパンフォームズグループへ水平展開され成果を上げていると自負しております。

【環境負荷低減活動】

環境マネジメントシステム I S O 1 4 0 0 1 規格要求に基づいた環境マネジメントシステムを確立し、全職域・全従業員による環境改善活動を継続的に推進しております。

環境に関わる法的及びその他の要求事項を遵守すると共に、自主基準を定め、地球環境の保全に努めております。これらの活動により外部からの指摘・苦情は発生しておりません。

得意先からの法令・環境に関する調査等に関しましても、環境活動及び I S O 1 4 0 0 1 の認証で、好印象を得ております。

生産活動が地球環境に与える負荷を把握し、技術的・経済的に可能な範囲で、環境目的・目標を設定して、継続的に省資源・省エネルギー、廃棄物の削減、地球環境汚染の予防に努めております。

循環型社会形成への取り組みとして、「廃棄物排出量の削減」、地球温暖化防止への取り組みとして「C O₂排出量の削減」を環境目標として取り組んでおります。

改善活動による仕組みを含めた製造方法・設備導入改造による効率改善、目標スピード設定・作業時間目標設定・目標損紙設定等の目標管理、効率的な作業手順への統一、製造・スタッフ部門による低損紙プロジェクト等の活動により、生産効率と重量損紙率を改善しております。

不良発生による再製造は、無駄な資源・電力使用、廃棄物の増加につながります。これを改善する活動として、「品質事前対策会議」開催、工場長・管理職による現場パトロール、品質管理による「品質注意喚起」発行及び周知、全従業員の「品質宣言」、品質改善委員会（社長出席）開催、5 S・品質ロスプロジェクト開催等で、品質事故を削減しております。

エネルギー使用量の削減では、デマンドコントロール・U V出力ダウン施策・各種設備インバータ化等による節電施策、季節・時間帯による給湯温度調整によるA重油使用量削減施策を行っております。

【社会貢献活動】

トッパン・フォームズ東海(株)の経営信条「三益一



受賞記念写真

如」（個人益・会社益・社会益）及び、環境理念・環境方針で、環境改善活動を通じて適切な施策を継続的に展開し、社会的責任を果たすことを提唱しております。

具体的活動としては、工場内外の環境美化活動（草刈り、落葉拾い、側溝清掃等）、近隣高校の要請で、高校2年生を対象に、職場意識の高揚を目的とした工場見学受入れ、献血協力、近隣企業との情報交換会、インターンシップ受入れ、職場体験学習（中学2年生、特別支援学校生）、植樹ボランティア参加（掛

川地区の海岸保全林の保護）、食堂で「TABLE FOR TWO」プログラム対応メニューを設定し売上げの一部を開発途上国の子供達に寄付、エコキャップ（ペットボトルキャップ回収）運動への協力、掛川市のA E Dマップに登録等を行っております。

これからも、従業員全員が地球環境の保全が全人類の重要課題であることを認識し、環境優良工場として恥じぬよう、環境保全活動を推進して参ります。

トッパン・フォームズ東海(株) 静岡工場



トッパン・フォームズ東海(株) 静岡工場

第 14 回印刷産業環境優良工場表彰

日本印刷産業連合会 会長賞（小規模事業所振興部門） (株)木万屋商会 市川工場

日本印刷産業連合会 会長賞を受賞して

この度、印刷産業環境優良工場表彰の小規模事業所振興部門で「日本印刷産業連合会会長賞」を受賞しましたことは、誠に光栄なことで感謝いたします。

当社は、社会的責任を果たすべく遵法の問題に則り、環境に配慮した工場を目指しています。

当工場は平成15年10月に東京都江東区東陽町から

現在の千葉県市川市に移転し、まもなく12年目を迎えます。建物は印刷棟、中央棟、加工棟、そして事務所棟に分かれておりますが、工場棟の床は平面で繋がっており、製品を移動しやすく工夫されています。ビジネスフォームに特化した工場で、多色刷の印刷機とロールコーレータによるロール t o ロールの製造がメインです。

平成24年6月にグリーンプリンティングの認定を受け、環境面の改善を続けてきました。施設面での主な改善点は、工場棟の屋根を断熱塗装し建物全ての照明をLED化することで電力消費量を減らし、また、コンプレッサーをインバーター方式の集中コンプレッサーに取り替えることで、騒音と電力消費量を削減できました。

平成26年5月にISO9001の認証を受ける際に製造プロセスを見直し、紙面検査装置も増設し品質の向上に役立っています。

人的活動としましては、毎朝、朝礼前に全員が4グループに分かれ、各々も週替りで担当場所を代り10分間清掃を実施しております。また、6S（整理・整頓・清掃・清潔・躰・作法）委員会による毎月のパトロールを実施し、6Sチェックシート項目も定期的に見直すなどの活動で綺麗な工場の維持に努めています。

デマンド監視装置を設置して、ピークカットを実施し契約電力の削減を図っています。これは夏季、冬季の電力使用量が設定値に近づいた場合、エアコンの使用台数を減らすなどして対応しています。



株式会社木万屋商会 市川工場

現像廃液は廃液濃縮装置で、また、湿し水廃液は水溶性廃液処理装置で廃液と水に分離することで、産業廃棄物処理量を削減しています。

VOCや臭気対策としましては洗浄瓶の先端にキャップをすることで、また、使用済みウエス、廃インキは蓋付きの回収容器にilerることで揮発を防止しています。

損紙率の削減としましては、主要品目においてオペレーター自らに目標を立てさせ、作業終了後に良かった点、改善点を話し合うことで次の目標に役立てています。

以上、簡単ではありますが、当社の取り組みを紹介させていただきました。

PMS認定に始まりGP認定、ISO認証そして、この度の受賞も日本フォーム印刷工業連合会からの絶大なるご支援とご指導の賜物と深く感謝しております。

これからも、環境優良工場としてその名に恥じないよう、環境活動を推進してまいります。

株式会社木万屋商会 市川工場
執行役員 工場長 鈴木 良弘



講師 梁瀬和男氏

いう発言を聞いて非常に驚いた。また、別の弁護士は、『アメリカのPLはあまりにも無茶苦茶だ。日本の皆さんがアメリカのPLの歴史から多くを学び取り、アメリカの二の舞いを演じないことを願っている』も言っていた」と述べた。

こうした米国での体験を受けて梁瀬氏は、「PLは企業と消費者が対立するものではなく、『双方の幸せ』を創りだすものであるというのが私の持論だ」と強調。「そのためには、企業は常に消費者の視点に立ち、消費者は企業を批判するのではなく、企業に提案・実行することが重要だ」と指摘。その一例として、主婦連と経済産業省の取り組みを挙げ、「これまでメーカー等のリコール社告は、新聞の社会面の一番下に小さな文字でごちゃごちゃ書かれていて、一体何が書かれているのか非常に分かりにくかった。これに対して主婦連は、企業を批判するのではなく、自分達が考える理想的なりコール社告の案を作って経済産業省に提案。こうして主婦連と経済産業省の連

合プロジェクトが立ち上がり、本当に消費者に分かりやすいリコール社告の表現方法を作成したところ、それが一年も経たないうちにJIS規格に制定された」と、消費者側が批判型から提案・実行型に移行した好事例を紹介した。しかし、「この事例にも問題点はある」とも言う。「せっかく主婦連と経済産業省で素晴らしいリコール社告案が作成され、JIS規格にまでなったにもかかわらず、家電業界以外ではほとんど守られていないのが現状だ。JIS規格を事業者サイドに周知徹底させるためには、各種の業界団体へ順守を働きかける必要がある」と述べた。

また、PL法と2009年9月に誕生した消費者庁については、「消費者庁は従来の消費者保護を中心としたPL活動をする役所ではない」と断言。「消費者庁も自ら勉強し、賢い消費者にならなければいけない。それを支援するのがPL法だ。企業も消費者も、悪いことは悪いと認めるべきで、どちらも甘やかしてはいけない。両者とも襟を正して主張すべきことは主張し、譲るべきことは譲って、両者が合意できる解決案を求める姿勢が必要ではないか」と提言した。

近年、多くの企業に取り組んでいるコンプライアンスについては、「コンプライアンスとは法令や企業倫理などを順守し、社会の要請に応えることである」と定義づけた。また、現在マスコミを騒がせている東芝の企業不祥事についても触れ、「企業不祥事根絶の決め手は、ISOの取得と内部監査役の育成だ。内部監査役は現場の従業員から選出することが望ましい」と強調した。



業務委員会主催

平成 27 年度夏季講演会「企業と消費者の協調・対話による新 PL 時代へ」を開催

業務委員会主催の夏季講演会を8月20日、ホテル椿山荘東京で開催した。講師は元愛知学泉大学教授で、一般社団法人PL（製造物責任）研究学会名誉顧問の梁瀬和男氏を招いて開催した。テーマは、「企業と消費者の協調・対話による新PL時代へ」。梁瀬氏は、

1995年11月に実施した米国PL事情研修ツアー（松下、三菱、日立など家電メーカー担当者ら17名が参加）に触れて、「ツアー中の講演で、現地の弁護士が『PLとは、あなたの会社を守る戦争、あなたの資産を守る戦争である。PLとは企業と消費者の戦争だ』と

国際委員会・技術委員会共催セミナー

産業用インクジェットは『もはや潮流ではない。爆発だ！』を開催

国際委員会・技術委員会は、海外におけるデジタル印刷の先端導入事例を紹介するセミナー「産業用インクジェットは『もはや潮流ではない。爆発だ！』」を、7月2日午後1時から日本印刷会館大会議室で開催した。講師はインクジェット印刷機を海外販売している5社(キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ(株)、コダック合同会社、(株)日本HP、富士ゼロックス(株)、(株)リコー)に登壇いただき、インクジェット印刷機を取り巻く環境や導入事例、技術などを報告していただいた。

当初160名の予定でセミナー募集を開始したが、250名を超える方から参加希望があり、1社からの参加人数を制限させていただくとともに、開催会場の予備椅子を全て出す程の大盛況でした。

- キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ(株)
講師：プロダクション企画部 部長 松藤 勝弘 氏



キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ社は昨年4月に昭和情報機器と日本オセ、キヤノンプリントスクエアの3社が統合して設立された。オセは2013年に日本市場向けに高速連続紙用プリンター「ColorStream3000Zシリーズ」の発売を開始している。

世界におけるロール連続紙タイプのインクジェット印刷機の占有率は、自社が41%であり特に海外では圧倒的シェアを誇っている。しかし、日本を含めたアジア地区はわずか9%であるので、「アジアではまだまだ訴求が必要」と述べた。

欧米の印刷会社での導入事例では、2年間で全ての印刷に対してインクジェット化を果たした米国のACCES DIRECT社は、「新しいインクジェット印刷設

備を入れないと、他社に仕事を奪われる」と、印刷のインクジェット化は急務であると同社の責任者は述べている。また、米国のミネアポリス近郊にあるIWCO Direct社は、北米ナンバーワンのダイレクトメール取扱い企業で、10年前には10%程度のデジタル印刷比率であったが、現在はデジタル印刷が50%までに引き上げており、費用対効果などを顧客に提案し、売り上げを伸ばしている。

ドイツ・ミュンヘンのBOSCH Druck社は、100年以上の歴史のある老舗印刷会社であるが、自動車のマニュアルの発行を、インクジェットによる印刷に切り替え、欧州で必要な多言語化の小ロット印刷で効果を発揮している。また、通販カタログを印刷しているDPG社は、コピーショップとしてスタートした会社。平均部数が84部という少量に対応しており、FacebookやInstagramからアルバムを作成するシステムを、インクジェット印刷機を中心として構築している。

最後に講師の松藤氏は、「インクジェットの勢いが欧米では『爆発』のタイトルにふさわしいものとなっているのに対し、アジア、特に日本ではまだ受け入れられていない。われわれもさらに努力が必要」と現状と今後について話された。

- コダック合同会社
講師：エンタープライズインクジェットシステム事業部 EIS営業本部 担当課長 山田 明伸 氏



今、印刷業界は出版や新聞、コマーシャルといった分野は苦しんでいるが、デジタル印刷機はそれを解決する方法と前置きし、欧米でのインクジェット印刷機の導入事例を紹介した。

Mercury社では、コダック「Prosper 5000Xli」を導入し、1,500冊以下ではオフセット印刷から、100冊以上では電子写真方式のデジタル印刷機から、インクジェット印刷機での印刷に切り替えている。印刷のランニングコストは電子写真方式の4分の1に、生産性は30倍に改善される。欧米ではインクジェット印刷機によるバリエブル印刷が一般的になっており、これを使ったワン・ツー・ワンマーケティングが当たり前だ。これまではオフセット印刷に可変情報を、モノクロのインクジェット機での追い刷りが中心だったが、白紙化・フルカラー化する工場現場が増加している。

インクジェット印刷機による製品化事例として、ドイツのaxel apringer社での大衆紙「Bild」の例を紹介した。インクジェット機によるバリエブル印刷で新聞紙面に“ビンゴ”や“宝くじ”を掲載することにより、1回の新聞発行で1,000万円売り上げを上乗せできる。また、隣接する広告の閲覧率を高めることができるとの検証結果も報告した。

この取り組みは日本の新聞でも行われており、広告接触率が数倍から数十倍になるとの結果が出ている。可変印刷によるプレゼント企画は、印刷媒体において今後有効な広告手法となると説明した。

- (株)日本HP (旧日本ヒューレット・パカード(株))
講師：デジタルプレス事業本部 戦略プロジェクト室 マネージャー 田口 兼多 氏



HPインクジェット印刷機「Inkjet Web Press」シリーズは、高速・大量用途向きであり、このインクジェット印刷機で生産される印刷物は年間100億頁(A4サイズ換算)で、この数は毎年増加している。

海外の事例では増える需要に合わせて短期間に複数台のインクジェット印刷機を導入するケースが増えている。書籍であれば、中身をインクジェット機で印刷し、表紙は同社の液体トナー方式のデジタル印刷機「HP Indigo」で印刷して、それらを製本するという、HPの提供する設備を結合したシステムも生

まれている。導入事例としてイタリアのCSQ社では、全てデジタル印刷機による可変印刷で、地域限定紙面作りで活用していることを紹介した。この「ハイパーローカライゼーション」と呼ばれる取り組みにより、広告収入が325%増加した。「結局、新聞の読者は、自分に関連性が深いことに多くの興味を割いて、身近な情報を中心に見ている。今後ますます、デジタル印刷の活躍する場は拡大していく。また、インクジェットの爆発は既に始まっている」と結論付けた。

また、同社では今年9月の“IGAS2015”に合わせて、同社のデジタル印刷機ユーザーのコミュニティ「DSCOOP」を日本で開催すると報告があった。

- 富士ゼロックス(株)
講師：研究技術開発本部 マーケティング技術研究所 研究主幹 森田 直己 氏



富士ゼロックスのインクジェット技術開発と商品化の変遷を示し、インクジェットの液滴は90年代前半の約100pl(ピコリットル)から現在は2plまで細かくなった。また、使用量も爆発的に増えた。技術的な進歩は主に「スジ消し」「小滴」「フォトインク」「マルチパス」を進めること。一方、市場としては「安く」「早く」「画質はそれなりに」という方向で歩んでおり、技術の進歩と市場は少し異なる道を進んでいる。さらに、高速インクジェット印刷の技術を支えているのは、純粋なインクジェットの技術ではなく、高速データ処理やソフトの充実等のIT技術であると指摘した。

現在、市場では先行する電子写真方式のトナー機と、インクジェット機の割合が均衡しているが、2016年には逆転する。全世界のプリントボリューム(印刷枚数)は約50兆ページで、オフセット印刷とデジタル印刷の比率は98対2が現状である。しかし、デジタル印刷での売上としてパッケージ印刷を見ると、すでに35%の収入がデジタル印刷で得ている。さらに、毎年オフセット印刷の減少率が10.2%、デジタル印刷の成長率が68%と見込めば、10年後には

デジタル印刷がオフセット印刷を追い越すことになるとのレポートもある。

オーストラリアのユーザーでは、オフセット印刷とモノクロプリントやトナー機のカラープリントとの組み合わせで製品を製造しているが、これをインクジェット印刷機に切り替え、中小ロットの出版物への対応を考えている。タイのユーザーはモノクロトナー機からの脱却と、デジタルカラーの仕事を取得するため。マレーシアのユーザーでは小ロットの出版について、製本工程の改善、コンテンツの充実、マーケティングへの活用として、インクジェット印刷機を導入している。

このようにデジタル印刷は大波で、印刷業界をすべて変えてしまうほどのインパクトを持っている。

● (株)リコー

講師：プロダクションプリンティング事業部
マーケティングセンター商品戦略室 伊藤 雅彦 氏



今年2月に開催されたHunkeler社の展示会で初出展し、「高画質」で「印刷用紙に刷れる」高速連続用

紙インクジェットプリンティングシステムとして、全世界に向けて6月に発売を開始したRICOH Rro VC60000の導入事例を紹介した。

オランダの印刷会社Zalsman社は1857年に設立したファミリー会社で、売上は年間30億円の規模の会社です。同社はオフセット印刷機を7台、電子写真方式のカット紙デジタル印刷機を4台導入しているが、2010年に初めて連続紙用デジタル印刷機を導入した。そして5年後の今日では、オフセット印刷とデジタル印刷の売上比率は8対2になって、デジタル印刷の売上は順調に増加した。そして、同社はVC60000の第1号機を導入しデジタル印刷の生産量と効率化を構築したいと考えている。

次に紹介したのはフィンランドのヘルシンキに本社を構えるHansaPrint社。同社は北欧ではリーディングカンパニーで、従業員数は約350名、年間の売上は約100億円の印刷企業です。同社は大きくオフセット印刷とデジタル印刷の分野に分け、デジタル印刷設備としては、トナータイプのシートカット印刷設備、連続紙用インクジェット印刷機を導入している。同社は印刷を中心とした総合企業を目指しており、パーソナルコード付きDMの発送や、パーソナライズ雑誌の作成や発送、フィンランドで有名な宝石店のDMデザインや店頭販促物の提供等、プロモーションやマーケティング分野も手掛けている。

今回、RICOH Rro VC60000の導入を機に、DMに加えてブックオンデマンドやカタログ類を拡大していく予定である。



創立 50 周年記念事業として

国際総合印刷機材展「IGAS 2015」に出展

9月11日～16日までの6日間、東京ビッグサイトで開催されたIGAS2015には、323社が出展され、57,000人弱の方々が来場されました。

統一テーマは、「Print +innovation プリントテクノロジーのさらなる挑戦!」とし、最新のデジタル印刷機が数多く出展された。

(株)日本HPは、会場内で最大級の展示スペースで、「HP Indigo 10000(シート機)」「HP Indigo 20000(ロール機)」「HP Indigo 30000(シート機)」など、日本初出展となるデジタル機を展示。富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(株)は、ミヤコシ製の軟包装用UVインクジェット機の「MJP20W」を展示。富士ゼロックス(株)はCNYKのほかに、5番目の色が選択できる「Xerox iGen 5 150 Press」を参考出品。(株)SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズは、ラベル用UVインクジェット機の「Truepress Jet L350UV」や、フラットベッドタイプの大判UVインクジェット機の「Truepress Jet W3200UV」を展示。コニカミノルタ(株)は、来年春に発売となるUVインクジェット機の「KM-1」を展示。同機は最大用紙サイズ585×750mm、印刷能力は

3,000枚/時(片面時)と、高い生産性をアピールしている。キヤノンマーケティングジャパン(株)は、カット紙デジタル機の「imagePRESS C10000VP」を展示。(株)ミヤコシは、トランザクションやダイレクトメール、カタログ、マニュアル、少量の書籍・出版など向けのインクジェット機で、解像度は1,200×1,200dpiと高精細で、印刷速度も毎分160mの能力を持つデジタル機の「MJP20MX」を展示した。

日本フォーム印刷工業連合会のブースは東館6ホール9に出展し、全国の会員企業を代表して11社(トッパン・フォームズ(株)、(株)イセトー、小林クリエイト(株)、光ビジネスフォーム(株)、(株)恵和ビジネス、レスター工業(株)、(株)やまとカーボン社、野崎工業(株)、太平洋印刷(株)、三郷コンピュータ印刷(株)、(株)プロゴワス)及び1地区(東北フォーム印刷工業会)からご協力をいただき、特徴ある製品の紹介や、今各社が取り組まれているビジネスについて紹介をいただきました。

また、事務局からは、印刷情報産業として独自の進展を遂げたビジネスフォーム印刷の「あゆみ」について、パネル展示も行いました。



開会式会場



入場窓口

フォーム工連ブース

北海道フォーム印刷工業会

理事会、親睦ゴルフコンペを開催

北海道フォーム印刷工業会(西智樹会長)は、8月3日(月)午前11時30分より、札幌プリンスホテルにて9社10名で、理事会を開催いたしました。

終了後には、情報交換しながら昼食会を行い、印刷に関わる原材料の高騰について各社の現状や価格転嫁の話でいろいろな意見があり、最終的に加盟業者は共通認識を持ち、営業活動を行う事を再確認し終了いたしました。

8月25日(火)には、恒例の親睦ゴルフコンペをツキサップゴルフクラブで行い、14社17名の参加で開催し、無事に終了いたしました。



親睦ゴルフコンペ

東北フォーム印刷工業会

役員会・納涼例会を開催

東北フォーム印刷工業会(大門一平会長)では、8月29日(土)に仙台スタジアムにて役員会を開催し、今後の日程並びにセミナー開催や、先進地視察の実施について、ご協議いただきました。終了後には昨年に引き続き納涼例会とし、会員・特別会員にて情報交換や交流を深めながら、J1ベガルタ仙台と新潟戦を観戦いたしました。試合はベガルタ仙台がレッドカードにて1人少ない中、健闘をしたものの終了間際にゴールを許してしまいましたが、白熱したトップリーグの試合に感動した例会となりました。来年は秋田の竿燈祭りに併せて、秋田市にて8月4日役員会・納涼例会を開催する予定です。

また、9月11日から開催されました“IGAS 2015”においては、日本フォーム印刷工業連合会のブースにて、東北フォーム印刷工業会としてパネル展示と会員企業の会社案内を置かせていただき、東日本大震災の復興が終わっていないことと、会員企業が地域と連携しながら事業と復興に取り組んでいることをアピールさせていただきました。



役員会 仙台スタジアムにて



納涼例会 J1ベガルタ仙台と新潟戦を観戦

関東フォーム印刷工業会

平成27年度夏季懇親会を開催

夏季講演会に引き続いて、8月20日午後6時から、ホテル椿山荘東京において、関東フォーム印刷工業会主催の夏季懇親会に約200名が参加され開催された。開会挨拶で関東フォーム印刷工業会の林陽一会長は、「昨日の発表で7月までに外国人が1,100万人来日している。経済効果は該当する業界に多大な貢献をしている」と述べた。業界は秋口から来年に向けての法改正、税制改正など新たな動きの中で、各社はセキュリティの面、設備投資の面で様々実施されることを挙げ、「今までの価格競争でなく、価値を提供する競争に市場を変えていかなければいけない。そのためには、新たなことにチャレンジする勇氣と企業努力を続けることだ」と挨拶した。

続いて、日本フォーム印刷工業連合会の櫻井醜会長は、今日の講演を聴講した感想を、「PL法は突然ア



経済産業省製造産業局 産業機械課課長補佐 服部嘉博氏



関東フォーム工業会 林 陽一会長



日本印刷産業機械工業会 宮腰巖会長

メリカから押し付けられた気持ちを持っていて、企業と消費者の対立関係と思っていたのは間違っている。そうではなくて、軋轢の関係を解消し、協調し、対話をして新しい関係を構築して下さいというのが、基本精神という話だった」と述べた。

また、日米文化の比較から標準化への道について、「同じことをやっても意味がない。個性ある生産現場や独自性を大切に企業経営」を求めて行きたいと挨拶。

来賓を代表して、経済産業省製造産業局産業機械課の服部嘉博 課長補佐は、「2014年1月からの設備投資減税の効果で、日本全体の設備投資金額が2014年度末で69兆円になり、2006年度レベルに戻っている」と述べ、2009年度のピーク78兆円を示して、成長戦略の目標は70兆円と告げ、「手の届きそうなところ



日本フォーム工連 櫻井 醜会長

ろまで戻ってまいりました」と期待を示された。

乾杯は一般社団法人日本印刷産業機械工業会の宮腰巖会長が、9月11日から16日の“IGAS”の案内を伝え、「経済産業省の生産動態統計では、今年上半期の生産額が前年同期比で103.6%伸び、商業印刷は114.6%と大きく伸びている」と盃を挙げた。

中締めは関東フォーム印刷工業会の福田学副会長が、「脱皮しないへビは死ぬと言われる。変化、変身して持続可能な成長、企業価値を高め価格競争に移らない業界として伸びていこう」と三本締めで閉会となった。

関東フォーム印刷工業会

第2回ボウリング大会を開催

平成27年9月24日(木)夕方より、「第二回大会」を東京ドーム・ボウリングセンターにて開催しました。

運営推進部隊の支部活性化委員会が、募集に併せ会員に個別に働きかけ、その結果25社90名が参加をしてくださいました(昨年は19社60名)。

18時に全員が集合し、林陽一会長の挨拶の後に始球式。選手80人が20レーンに分散して元気潑刺で2ゲームトータルの試合が行われました。

優勝者は、日本通信紙(株)の斉藤宏様でトータル357点です(昨年は10位250点)。準優勝者は、カワセコンピュータサプライ(株)の岩崎克紀様でトータル354点と3点差。この方は昨年も1点差で涙を飲みました。今年は2ゲーム目9フレームにストライクを出し、優勝間違いなしの状況から最後の10フレを9本、そのスペアをミスして、残念な連続準優勝者になってしまいました。来年こそ優勝を狙うと言っておられます。3位はビーエフ&パッケージ(株)の刺客永吉哲也様が317点で初参加・初入賞を果た



林陽一会長の挨拶

しました。第1回は女性が優勝でしたが、今回は上位は男性が占め、女性のトップは12位の三郷コンピュータ印刷(株)の浪川雅美様でした。また、レーン対抗の団体戦は、キャンセル補充出場の根岸敬理事が大奮闘、303点を叩き出し、15番レーンが4人トータル1077点で優勝しました。

普段は顔を合わすことも少ない社員どうしですが、ストライクやスペアの場面で、ハイタッチを交わしあい、親しく、そしてワイワイ楽しくやれました。二回目の開催で少しずつ良くなって来ましたので、来年はさらに、多くの会員に参加を呼びかけて、関東フォーム印刷工業会の日常の会員企業同志のコミュニケーションが良くなるように、微力ながらお役に立てれば幸いと願っています。

文責：支部活性化委員会
太平洋印刷株式会社 大塚滝



始球式



懇親会



レーン対抗戦

中部フォーム印刷工業会

9月定例理事会・理事懇親会を開催

中部フォーム印刷工業会(入野康会長)では、9月17日午後5時から9月定例理事会を開催し、日本フォーム印刷工業連合会理事会、『9月印刷の月』行事等についての報告を入野会長からいただいた後、市場動向の情報交換を兼ね、名古屋駅前にて理事懇親会を開催しました。

例年11月に開催しています会員研修会について、今年度は11月17日(火)に開催することとしました。当講演は東京にて日本フォーム印刷工業連合会として開催されたものですが、一部内容をブラッシュアップしていただき、ご講演いただく予定です。

平成27年度中部フォーム印刷工業会会員研修会

- ・日時 11月17日(火) 午後3時～午後4時30分
- ・テーマ 『認知的視点から見た紙と電子メディア』
- ・講師：柴田博仁氏(富士ゼロックス(株) 主査)
- ・定員：50名
- ・会場：愛知県産業労働センター
「ウインクあいち」907会議室

また、11月初旬に会員交流会として、親睦ゴルフコンペの開催を予定しています。

関西フォーム印刷工業会

大阪支部「第48回プチ勉強会」を開催

関西フォーム印刷工業会大阪支部(平松敬康支部長)では8月27日に、大阪産業会館3Fにおいて、17社19名が参加して、8月例会と第48回プチ勉強会を開催した。

今回のプチ勉強会は、「カラーデジタルIJ連帳プリントシステム」と題して、株式会社メディアテクノロジージャパンの実原弘明様にご講演いただきました。サマリーは次の通り。

まずは、カラーインクジェットプリンターが、

フォーム業界でどのような使われ方をしているかの事例紹介があり、圧着はがき、OCRドロップアウトカラー印刷、ノーカーボンの複写精度、薄紙などに十分対応できている現状の報告があった。前後加工装置のラインアップも充実してきており、巻き取り、折り対応はもとより、マージナルパンチ、ファイルパンチ、変則ミシン、横ミシン、シートカットからシートパイル装置まで用意されている。

SCREENのTruePressJetシリーズも8年の歳月を経

国際委員会

北米印刷事情レポート（WhatTheyThink）より

マーケティングサービスプロバイダ(MSP)への転換が鈍化し、
本業の印刷サービスへ回帰

InfoTrends アソシエイト・ディレクター Howie Fenton 氏

InfoTrendsは、2015年度米国の産業用ソフトウェア投資調査を実施した。商業印刷会社や社内印刷センターが対象で、彼らの事業におけるソフトウェアの導入、サービス内容、支出額などを調査したものだ。同調査によると、来年度には、印刷会社の約40%が1～9%、20%が10%～19%の売上げ拡大を見込んでいるという。レポートは、Web to print、可変情報のデータプリント、クロスメディア、カラーマネージメント、アウトソーシングITサービス、サービス毎の利益性など、ワークフローソフトなどを中心に触れる内容となっているが、今回の記事ではプリントサービスプロバイダ(PSP)からマーケティングサービスプロバイダ(MSP)への転換の鈍化について焦点をあてていきたい。

MSPへの転換について

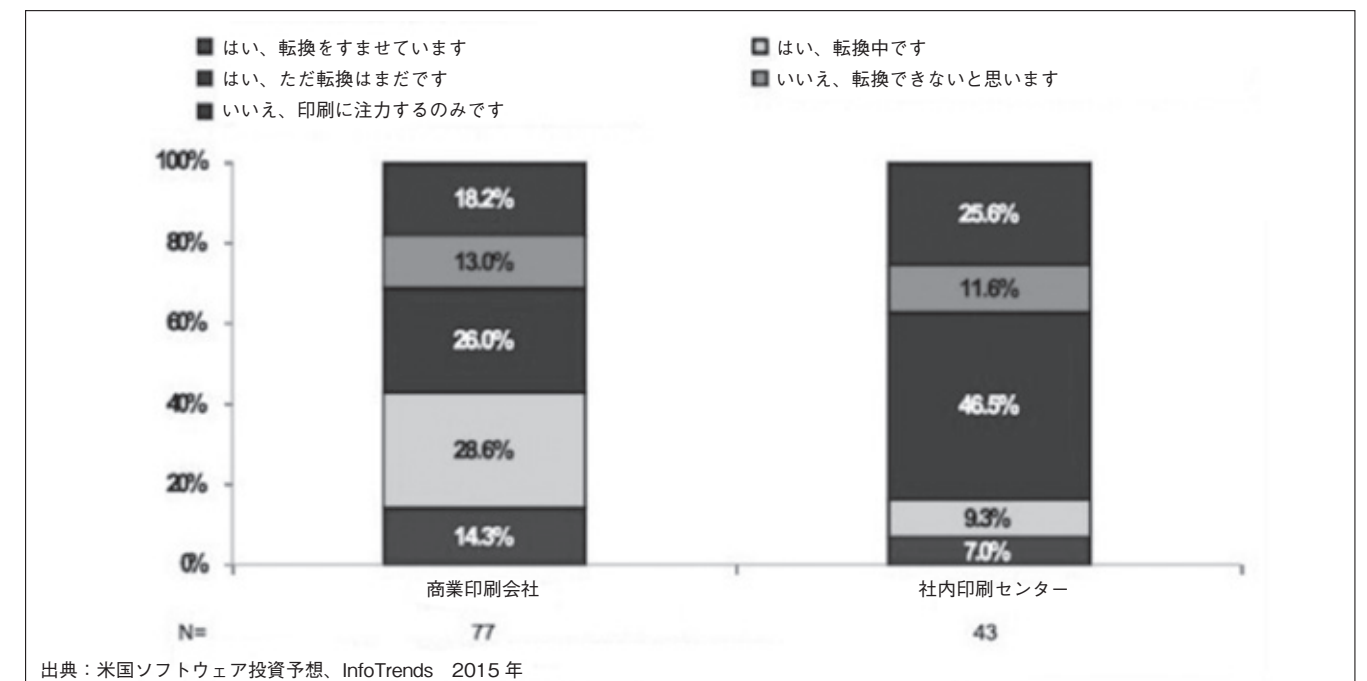
2015年調査の対象者にPSPからMSPへの転換について聞くと、回答者の14%がすでに転換を済ませて

おり、29%がその計画があるという。一方、社内印刷センターは、7%が実際に転換を済ませていて、9%がその過程にあるようだ。47%は転換が重要であるとみなしているものの、実行に移していないという。また、印刷一本に注力する以外の事業戦略をとらない傾向が強い。(図1)

PSPはMSPに転換すべきか？

InfoTrendsは2014年度に同様の調査を実施したが、去年と今年を比較すると面白い結果が浮かび上がってくる。去年の調査では、商業印刷会社の36%、社内印刷センターの30%がMSPへの転換の道中にあると回答したが、2015年になるとその比率はそれぞれ29%、9%へと低下しているのだ。これは、転換を試みたが、成功しなかった会社がいることを示唆しているといえよう。

図 1



て次々と新機種を配してきたが、最新機種の520HDでは1200dpiの高画質フルカラーを実現し、一般の冊子やパンフレットの用途にも耐えうる品質を誇っている。

ここまで来ると、フルカラーのバリアブルプリントが現実味を帯び、それを実現するためのIT技術とマーケティング能力が要求されることになる。フォーム業界はITサービス業に変身していくことになるだろう。

大阪支部 ビアパーティーを開催

関西フォーム印刷工業会大阪支部(平松敬康支部長)では7月15日に、大阪駅前グランフロントオオサカのモッタポロテニューを貸切り、正会員・準会員・特別会員合わせて62名の参加で、ビア懇親パーティーを行いました。



関西・京滋支部 合同納涼懇親会を開催

関西フォーム印刷工業会京滋支部(太野垣裕二支部長)では8月20日に、京都鴨川の「梅むら」で20名の会員が参加して、鴨川の床料理で少しでも涼を取って暑さを乗り切ろうと、芸舞の華やかな中で京料理を堪能いたしました。

九州フォーム印刷工業会

平成27年度第2回理事会を開催

九州フォーム印刷工業会(和田秀一郎会長)は、8月18日(火)に福岡の「しゅ籐」にて、平成27年度(第二回理事会)を開催した。

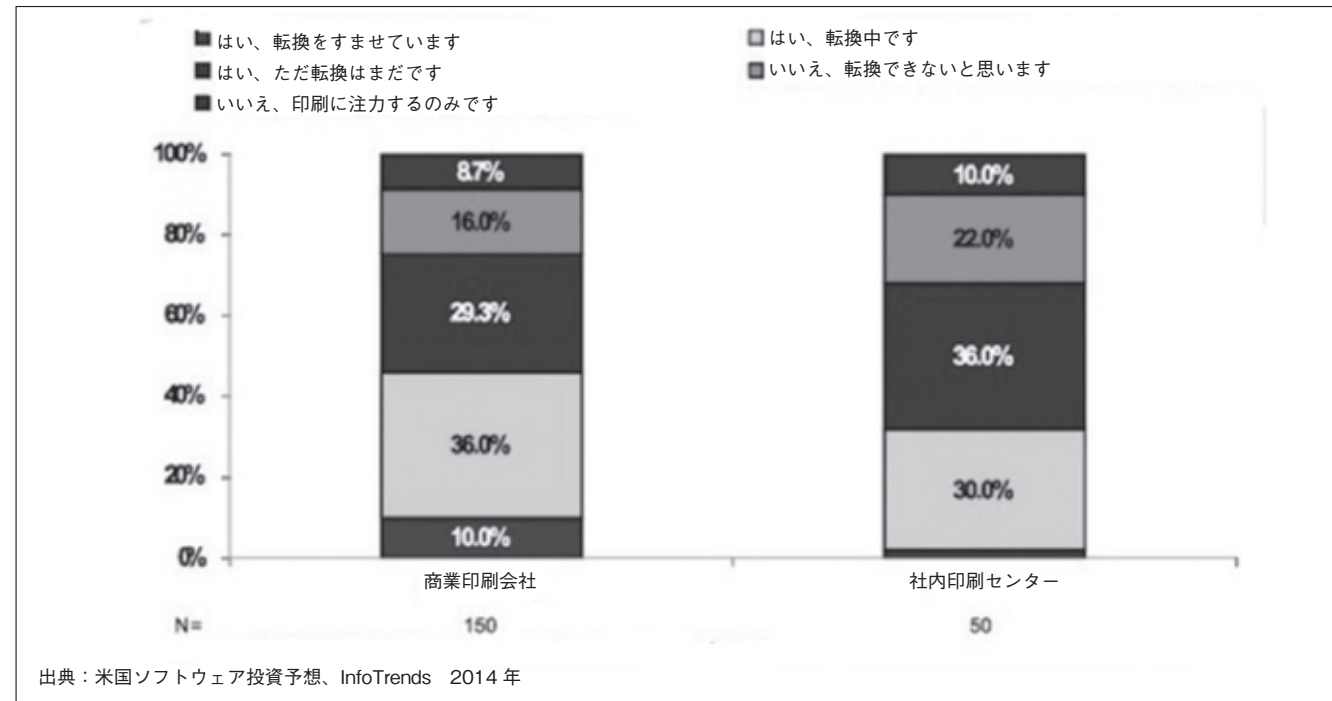
当日は11社12名の会員が参加し、各社近況報告と現状の取り組み等が報告された。

また、今回九州で開催される「持回り理事会」の現状報告と役割等を話し合った。

最後に相互の情報交換、会員同士の親睦をはかり閉会した。



図 2



PSPはMSPに移行すべきか？

調査でもっと興味深いことは、MSPへ転換しようとしなない会社の多さだ。理由は、会社にそのような戦略がない、または、転換できるような能力を持ち合わせていないからだ。2015年度では、商業印刷会社の31%、社内印刷センターの37%が転換の意思がないという。この数値は、2014年度の商業印刷25%、社内印刷センター 32%と比較すると転換をあきらめた会社が増えたことを示唆している。転換を

完了させた印刷会社が増えたにも関わらず、諦めてしまった会社が増えたのは何故だろうか。『オッカムの剃刀』を例えると、正解は一番簡単な説明であったりする。つまり、転換を簡単に実現してしまった会社がいる一方、転換に苦戦した末、嫌気がさして本業に回帰してしまったと説明がつく。(図2)

注：『オッカムの剃刀』
ある事柄を説明するのに、必要以上に多くを仮定するべきではない。

図 3

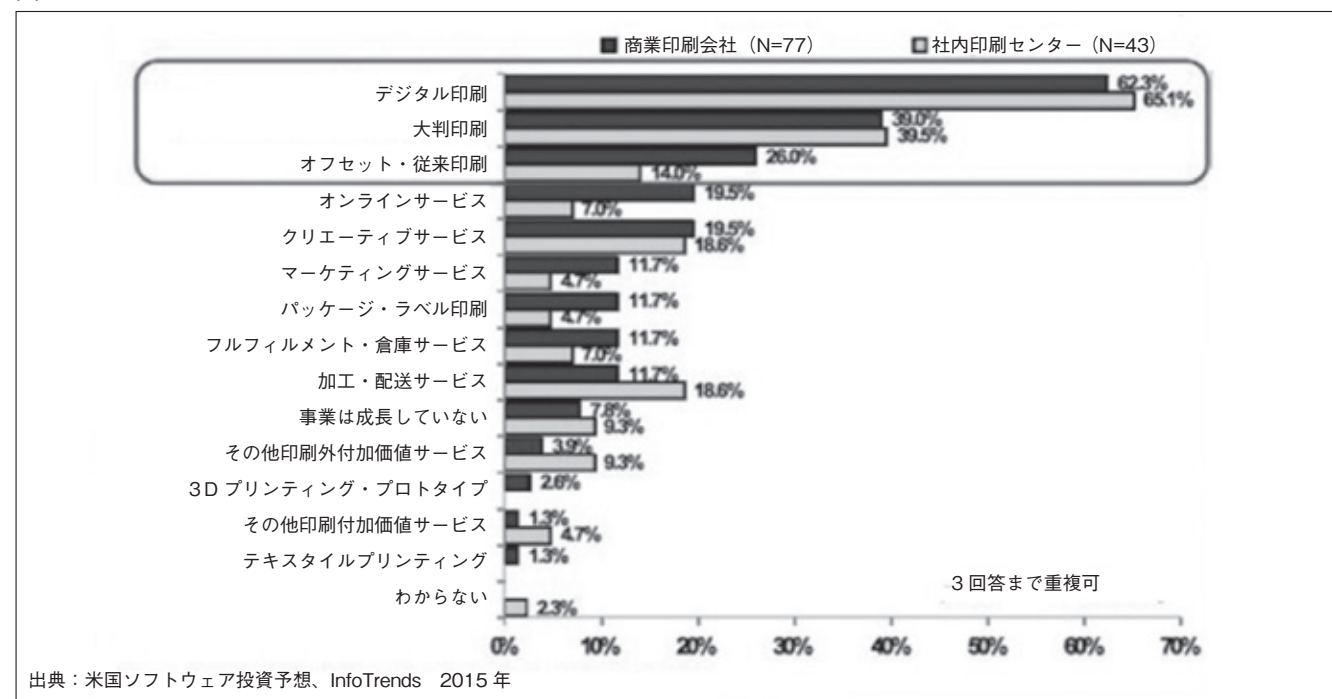
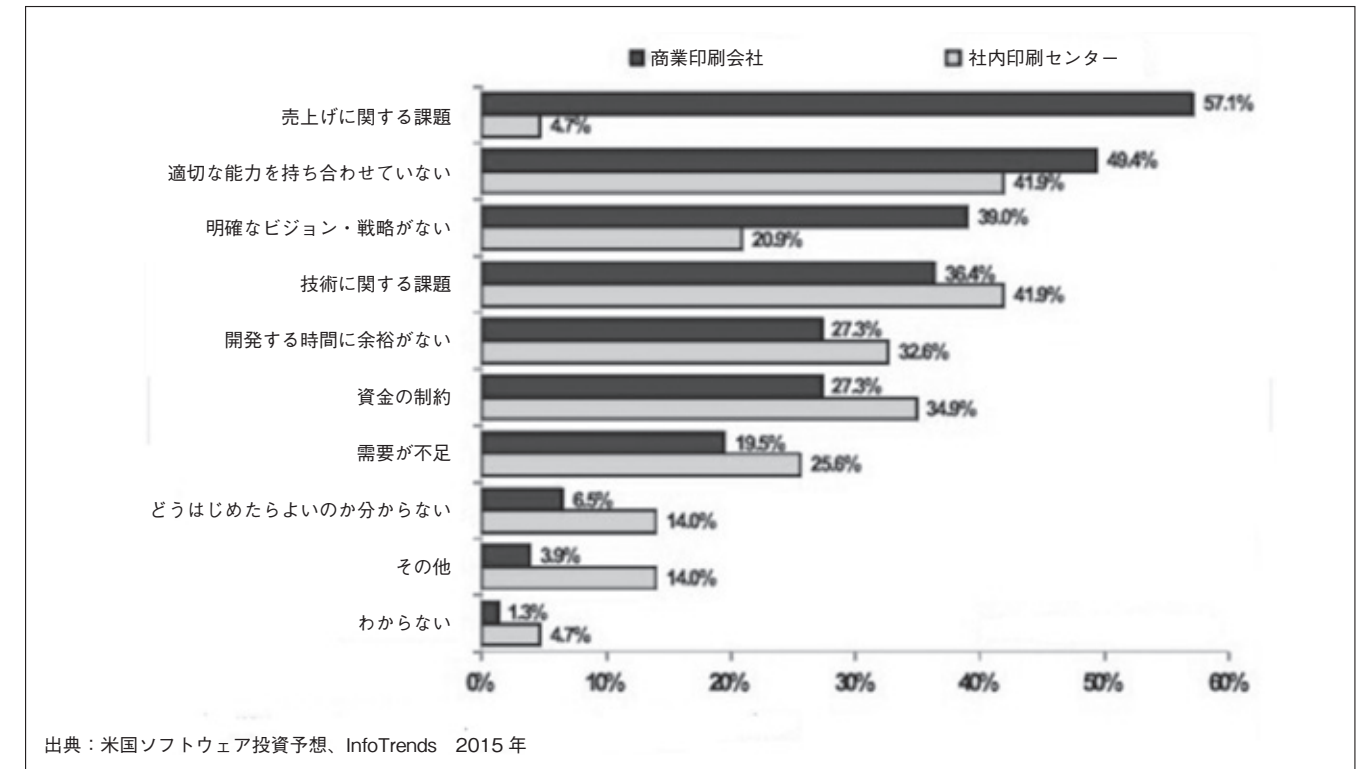


図 4



印刷事業への回帰

本業の印刷事業への回帰とはどのようなものであろうか。対象者にどの事業が一番成長しているかと聞くと、上位にデジタル印刷、大判印刷、そして従来型のオフセット印刷などが入ってくる。大判印刷が従来型印刷であることに異論を唱える人もあろうが、同じ客層に売られているため、本業として分類しても間違いないだろう。(図3)

一番成長している事業は何か？

PSPが本業に回帰しつつある根拠として、MSPに転換しようとする時に直面する様々な課題が背後にあるといえよう。最大の課題は、営業及びスタッフ部門のスキル、戦略、そして運営に纏わるものだ。MSPへ転換しようすると会社全体のあらゆる側面で支障をきたす。可変情報のデータプリント、大判印刷、メーリングサービス、フルフィルメントなど付加価値サービスを提供するために従業員のスキルや運営方法を変えることはできるとしても、MSPへの変革となるとハードルは高くなるようだ。

MSPへ転換するとき主な課題はどのようなものか？

まとめ

業界は、PSPからMSPへの転換について、もう5年以上も議論をしてきた。マーケティングサービスを提供することによって、より高い付加価値サービスを提供することとなり、従来製品の売上げと利益の減少の穴埋めとなる。マーケティングサービスが注目を浴びる前までは付加価値サービスというと、企画・デザイン、可変情報のデータプリント、大判印刷、質感やメタリックな印刷仕上げ、メーリングサービス、フルフィルメントサービスなどが主流であった。多くの会社がMSPへの転換を済ませた一方、本業に回帰する印刷会社も増えている。「大きな波は全ての船を持ち上げる」という古いことわざがあるが、景気が向上すれば、従来製品の売上げも改善する。

MSPへの転換に苦戦している会社は、厳しい状況を凌ぐために本業に頼りがちであることは否めないであろう。(図4)

PODi JAPAN
翻訳協力：Mitchell Shinozaki

ヒューレット・パッカード社のEric Wiesner氏とは何者か？

ジャーナリスト・マーケティングコンサルタント Cary Sherburne 氏

読者の多くはAurelio Maruggi氏をご存知かもしれない。同氏はHP（ヒューレット・パッカード）のInkjet High-Speed Production Solutions（IHPS）事業部を設立当時から率いてきたが、最近社内の他部署に移動した。彼は常にお客様とともに現場にいたため、お客様のビジネスのニーズを本当によく理解していた。その後継者となるのが、Eric Wiesner氏である。同氏の履歴は、Muraggi氏とかなり違うが、HPとお客様にとって貴重な存在であることには変わらない。最近 同氏と面会して経歴について、そして、将来として何を考えているのかを聞く機会があった。

Weisner氏との会談は、HP高速インクジェットプリンターの顧客ベースが急速に拡大して行き、わずか6年で全世界1,000億ページを超えたことの話から始まった。HP社は、2008年にDrupaで事業の発足を発表してから産業用インクジェットに最も大きな衝撃をあたえたひとつのベンダーであるといえよう。

「事業部を2009年1月に立ち上げてから僅か数年間で1,000億ページのマイルストーンを達成したことは驚異的といえましょう」と自負するのはWiesner氏。「2009年のスタートから翌年、すでに10億ページを達成していました。その後、お客様が新しいアプリケーションを開発して新規顧客を開拓し、アナログからデジタルへ移行するにつれ、ボリュームは加速的に拡大して行ったのです。そして、1,000億ページを積み立てると地球から月まで到達することができるのはご存知でしょうか。この増え具合だと3日間で地球を一周することができてしまいます。最初にインストールしたインクジェット装置はいまでも稼動しています。お客様が最新技術を維持できるようにと何回かアップグレードしましたので、機械は順調です」。

Wiesner氏は、機械技師として30年前にHP社に入社。当時は、HP研究所でプリンテッド集積回路の研究開発を担当した。その後、製造部門に移り数年間ドイツで過ごし、1993年にサンディエゴに転勤となり、今の基礎となる印刷分野に携わるようになる。直近では、印刷の中央研究所の責任者をしていた。「研究所ではインク、プリントヘッド、システム開発、Indigoの消耗品の寿命延長化など何でもやりました」とWiesner氏。「長年勤めていましたので、印刷事業の端から端までを知ることができました。私どもの

研究所では、インクジェット連帳機を開発し、前任のMaruggi氏にその技術を渡しました。彼はそれをIHPS事業として大きく成長させることに成功したのです。その事業を彼から引き継ぎいだことを私は非常に喜んでいます」。

Weisner氏はHP社のサーマルインクジェット技術にもムーアの法則のようなものが適用されるという。18ヶ月毎に性能が倍増しているからだ。「HPサーマルインクジェットの技術革新の大部分は、ノズル濃度、ドロップ重量、高画質ノズルアーキテクチャー（HDNA）技術など連帳機から始まるのです」と同氏は言う。

印刷は死んだわけではない。インターラクティブに進化するだけだ

この1,000億ページのマイルストーンは、印刷が死んでいない証となろう。それでも信じようとしない人に対してWiesner氏はこう駄目押しする。研究所にいたときに、私に託された最後の研究テーマは、『『印刷は死んだ』という概念とは何か、コミュニケーションの中での印刷の関連性は、モバイル電子ディスプレイと比較して、どのような場合に印刷が効果的か、などでした。インターネット、ソーシャル、モバイル、IoT（Internet of Things：もののインターネット化）などは、今日のメガトレンドであることに間違いありません。そのような中で印刷が生きていく一つの方法として、私どもが開発してきたLink Readerの技術があるかと思います。本年2月に開催された“Hunkeler Innovation Days”などでご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、印刷した全てのものをIoT化できるものとして、お客様に紹介してきました。印刷がインターラクティブになって、ネット上のリソースに繋がるのです。私は、この技術は、将来印刷を救うと信じています。やり方によっては、消費者は、看板や書籍のコンテンツに深みがあることを認識するようになり、積極的にスマホをかざすようになるかもしれません。もし、繋がらなかったらリンクが壊れていると消費者が思うだけです。HP社では、メガトレンドに逆らうのではなく、そのトレンドに如何に乗るかを追求したいのです。それによって、印刷はさらに飛躍することとなるでしょう。志は高いかもしれないが、巷のQRコードとどう違

うのだろうか。QRコードは少なくとも北米では、期待されたほど広まらなかった。確かに、利用シーンは増えてはいるが、Wiesner氏によると、モバイルデバイスの9%しかQRコードを読むことに使われていない。「QRコードは醜いですからね。ページのかなりのスペースを食ってしまいます。ただ、そこに何かがあることを示すことはできます。広がらない理由は二つあると思います。ひとつは、エクスペリエンスが良くないことでしょう。良くなければ消費者は二度と使いません。もうひとつは、消費者がコンテンツに辿り着くのは無料ですが、QRコードを印刷するコストが高すぎます。広めるにはタダにするか、タダに近いものにする必要があります。広く行きわたらすためには、様々な障害を取り除き、コストを限りなく安くするとともに、消費者のエクペリエンスが良いものとなるよう保障すれば、瞬間に広まるでしょう」。

そして会話は、QRコードやその他の問題、AR（拡張現実）へと進んでいった。北米では、これらの技術をスマホに基本アプリとして組み込まれていない。アプリをダウンロードして、使う度にアプリを起動させないといけない。これでは、不便としか言いようがないとWiesner氏は言う。「HP社の規模は大きく、モバイルについての知見も豊富です。また、アップルやグーグルなどと強い関係を持っています。お客様がやりたい事を実現させたいことは疑う余地もなく、それを成すためには、ARをOSに基本アプリとして組み込んでしまうことが最も良い道筋と言えます。ただ、この問題は、鶏が先か、卵が先かの話と同じです。お客様が、もっと使ってくれば、ものごとが急速に進みますが、実際には複雑すぎてお客様が使ってくれない状況にあります。我々は、HP社固有のLinkReaderとして推進しようとしているわけではありません。LinkReaderを独立したものとして推進して、いろいろな方々と広くオープンにシェアしていきたいと思っています。相互作用のきっかけをつくるためには、特定の技術に依存してはいけません。なにかを付け加えたいとか、コンテンツをどのように配信させたいとかいうことを、誰とでもオープンに協議していきたいと考えております。いろいろな人たちが築きあげることができるプラットフォームを造り、だれでも安価に入手できるもの

とし、印刷業界の底上げに貢献したいのです。全ての印刷物にリンクが貼れることを切に希望しており、それを偏在的なものにしていくために努力を続けてまいります」。

彼は社内に関じこもっていない

就任してから、Wiesner氏はサンディエゴのオフィスにはほとんどいない。「私は30日間で、3つの大陸に跨る7カ国のお客様20社を訪問しました。私が行く所どこでもMaruggi氏の影響をみることができます。全てのお客様は、個人的に彼と親しくしていて、会えなくなることを惜しんでいました。ケーキで送別会を行ったお客様もいたほどです。『たった一冊の本』というコンセプトに取り組んでいるあるお客様は、HP社の先進的技術とのパートナーシップなしでは、今日のような事業はなかっただろうとおっしゃってくださいました。私どもは、お客様にエコシステムを提供してきたのですが、そのエコシステムが上手く機能するように、お客様と一緒にとなって一生懸命に勉強してまいりました。Maruggi氏の実績は、私にとってより高いハードルを設けることとなりましたが、彼と同じ志で今後とも挑んでいきたいと思っています」。

PODi JAPAN

翻訳協力：Mitchell Shinozaki

米最大手R.R. Donnelley が業態変革のために3社に分社化

InfoTrend Digital Printing & Media 部門の責任者 Jim Hamilton 氏

今週の8月4日にR.R. Donnelley社は、会社をカスタマイズマルチチャネルコミュニケーション(CMCo)、フィナンシャルコミュニケーションサービス(FinancialCo)、そして、出版及び小売を主体とした印刷(PRSCo)の3つの独立した上場会社へ分社化すると発表した。この分社化は、「印刷した製品を集荷するビジネスモデル」から、データ分析、コンテンツの最適化、マルチメディアマーケティングを活用した「マルチチャネルコミュニケーションサービスモデル」へと「業態変革する為」との理由である。本体として残すカスタマイズマルチチャネルコミュニケーション(CMCo)から切り離すのは、FinancialCoとPRSCoで、2016年末までには完了させるという。CMCoは、すべての債権と債務を引き継ぎ、FinancialCoとPRSCo事業の売却から得た資金を受け取る。既存の株主は、自動的に3社の株式を保有することになるという。各事業部の経営陣については、

明らかにしておらず、発表は後日まで待たなくてはならない。

R.R. Donnelley 社はおおよそ115億ドル(1兆3500億円相当)の売上有るが、それが分社化されると以下の通りとなる。(図1)

- カスタマイズマルチチャネルコミュニケーション(CMCo)―70億ドル：CMCoは製品販促・物流と、可変印刷など主に2つの大きな事業から構成される。DM、BPOやアジア地域、商業印刷とデジタル印刷などを含む事業分野は一番大きく、2012年から2014年までの売上は2.6%成長した。
- フィナンシャルコミュニケーションサービス(FinancialCo)―10億ドル：FinancialCoは、Donnelly社の金融関係の印刷や2012年に買収したEdgar Onlineなど関連サービスを含む。FinancialCo事業の2012から2014年の売上げの成長は1.4%であった。

図 1

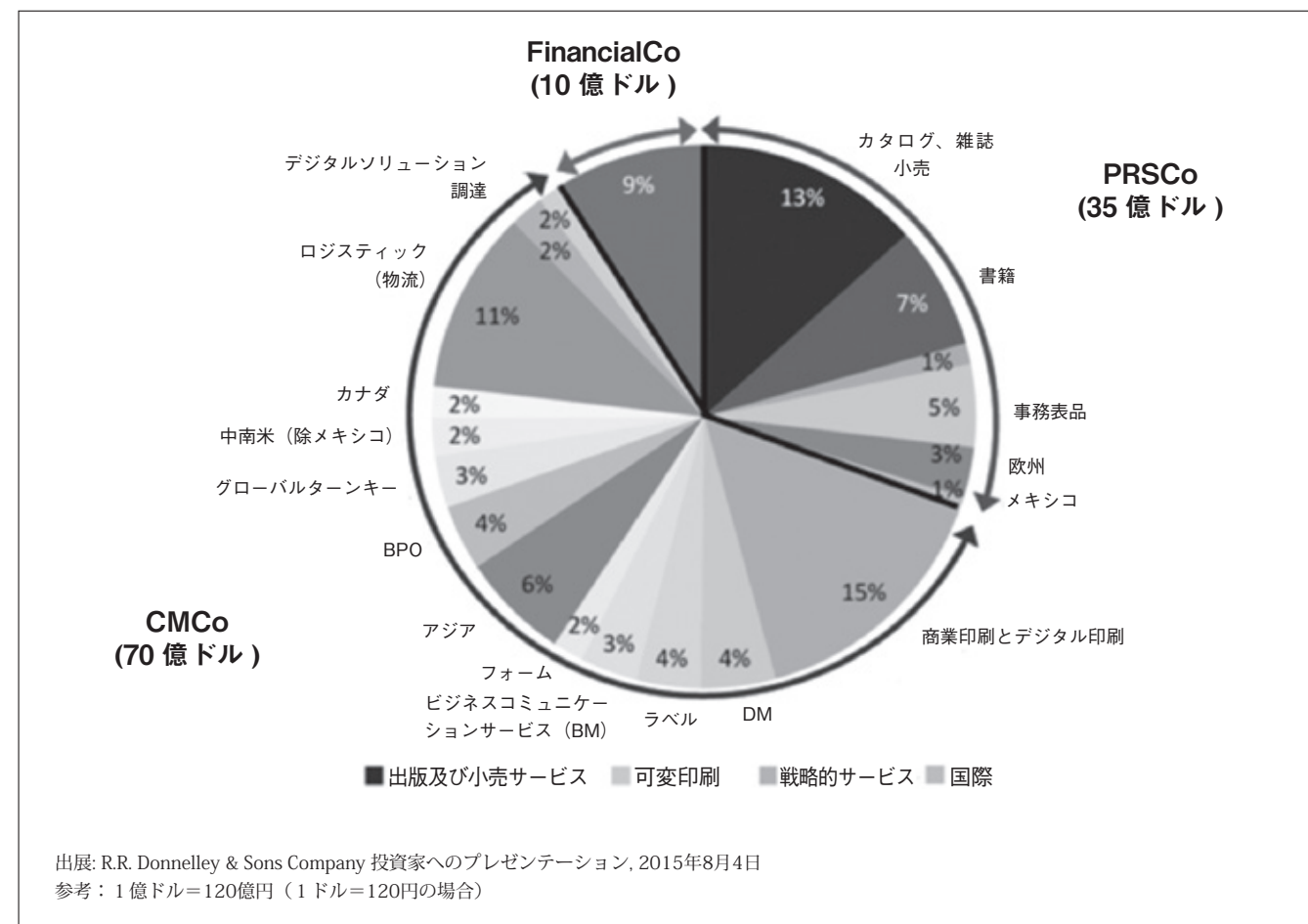
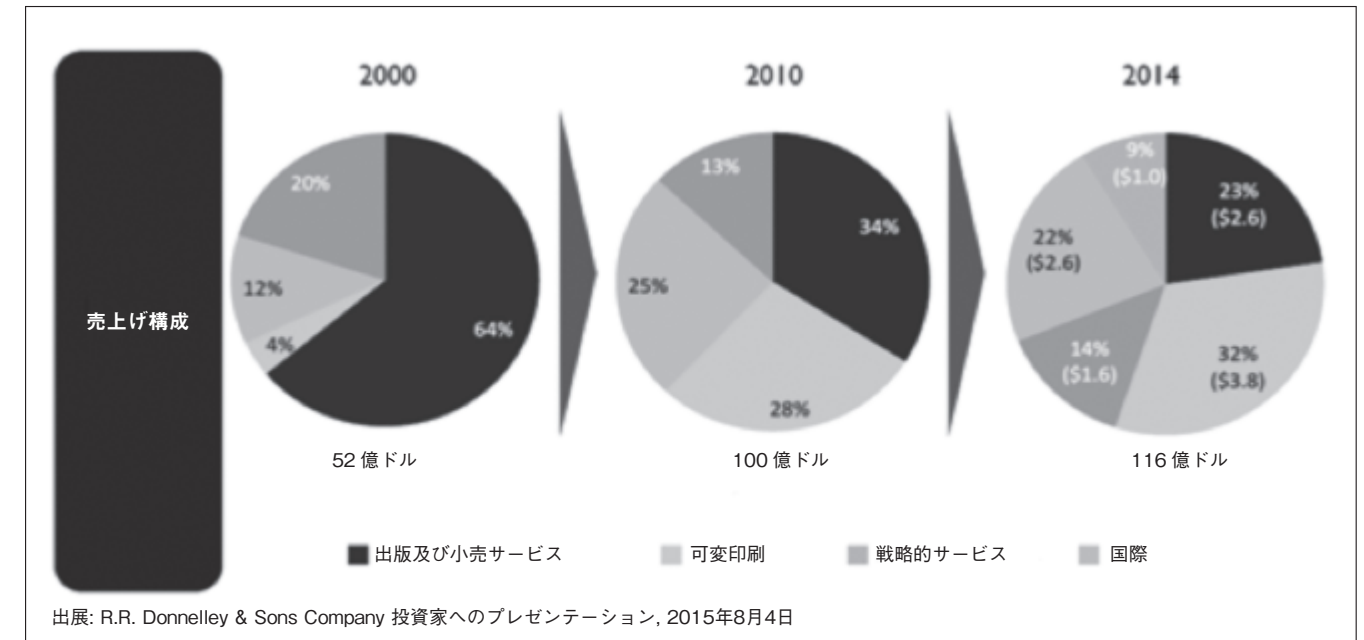


図 2



- 出版及び小売を主体とした印刷(PRSCo)― 35 億ドル：PRSCo は、カタログ、雑誌、書籍、折込チラシ、名簿・住所録、事務用品などを含む。この事業分野は、Donnelley社の生い立ちであり中核であったといえるが、2012年から2014年の売上げは3.1%減少した。

Donnelley社の事業構成は、同社による業界の買漁りが始まる前の2000年時点と比べるとかなり変わっている。当時の売上げ規模は52億ドルで、出版と小売サービスがその2/3を占めていた。しかしその事業分野は縮小して行き、現在では売上げの23%しか満たない。一方、可変印刷は2000年の時点では全体の4%しか満たなかったが、2014年になると38億ドル事業まで成長して行き、現在Donnelley社の売上げの1/3を占める。この可変印刷は2004年のMoore Wallace社、2007年のCardinal社、2014年のCGX及びEsselte NAなどの買収を通じて拡大して行った。

この分社化の発表は、2015年度第二四半期の芳しくない業績発表の直後にあった。同社の売上げは前同期と比較して5.3%の減少し、純利益も前同期の6,470万ドルから4,350万ドルへと減少した。Donnelley社の将来を考えると、CMCo事業は成長の余地が見込まれるものの、重荷となる従来の印刷事業とどのようにバランスを取って行くかが、大きな課題として申し掛けている。CEO兼社長のThomas J.

Quinlan III氏は、「今後も積極的にコスト管理をして行く」と主張するが、従業員には今後工場閉鎖や解雇が待ち受けていると聞こえるだけだ。

ある投資アナリストによると、Donnelly社の動きは、最近HP、eBay、Symantecが行った分社化を模倣したのではないかという。事業を小さくすることにより、財務力が強化され、株価のパフォーマンスを上げて行くことが狙いのようだ。150周年を祝ったばかりの歴史ある会社としては、現代的な経営手法を採ったといえよう。印刷業界を注視している者にとっては、Donnelly社の分社化が実際の事業にどのような影響を与え、将来にとってどのような意味をもたらすかが興味の焦点となる。

2000年からはじまった巨人による未曾有の買漁りは、業界全体に大きな影響を与え、多くの人々にとって畏敬の対象として映った。そして現時点に限ってみれば、どうやらその拡大路線に終止符が打たれたようだ。今後は企業体を小さくすることにより、市場のニーズに的確に事業体を合わせ、業界のトレンドやビジネスチャンスに沿った有機的な成長を目指す経営が中心となって行くのかもしれない。

提供: WhatTheyThink

PODi JAPAN

翻訳協力: Mitchell Shinozaki

トランザクション印刷と郵便の不透明な未来

InfoTrends Associate Director Howie Fenton 氏

この業界のほとんどの人は、郵便物と印刷が減少し続けているのに気づいている。郵便箱を開ければ、個人宛ての手紙が徐々にe-mailに置き換わってきていることがわかる。さらに深刻なのは、請求書、明細書といったトランザクション書面の急減であろう。トランザクションを社内で行っている印刷会社は、請求書、明細書、インボイス、目論見書といった重要なビジネスコミュニケーションの印刷を集中的に行ってきた。

数年前、U.S. Postal Service (米国郵政) の売上の1/4以上は、請求書等の郵送と、支払い小切手の郵送で利益を得ていた。そして、米国郵政の基幹商品のFirst-Class Mail (普通郵便) がもっとも売上が大きかった。しかし、そのFirst-Class Mailの取扱い量が、2001年の1,030億通から、2014年には640億通と大きく激減したのだ。

消費者は依然、紙を好む

時代は変わりつつあるが、伝統的な印刷と郵送は、社会全体の中ではまだ重要な部分を占めている。電子帳票とオンラインでの支払いに関する初期の予測は、少し過剰な推測であったことが確認されており、請求書、明細書等のトランザクション印刷物や郵便に関する暗い見通しも誇張されたものだった。

伝統的な郵便か、電子化かに対する顧客の嗜好の

調査について、興味深い傾向が現れている。

白髪が目立つ世代に属すものとして、私は依然紙が好きだと認める。支払いの物理的な催促を好み、それらの請求書類をフォルダーに入れることで、月額の支払いは一目瞭然となる。いくらの支払いで、どういうオプションがあるのか一瞥でわかる。

InfoTrendsの年間トランザクション市場調査によれば、紙を欲しがるのは私だけではないことがわかる。この調査に回答した50%以上の方々が、紙の請求書や明細書の最大の利点は、物理的な督促状となることだと答えている。同時に1/3以上の回答者が自身の記録のために紙が欲しいと答えている。

What do you consider to be the top benefits of receiving bills/statements in the mail?

請求書／明細を郵便で受け取ることのメリットはなんですか？ (図1)

紙か電子かの嗜好は、消費者の年齢が時として良い指標とはなるが、請求、支払いにおける嗜好の決定に於いて、年齢だけではやや単純過ぎるであろう。

Suzanne Cramer氏の請求書の支払方法は年齢層によるか？によると、年齢以上に所得や教育水準等の方が、請求書支払方法の選択に影響が強いという。

図 1

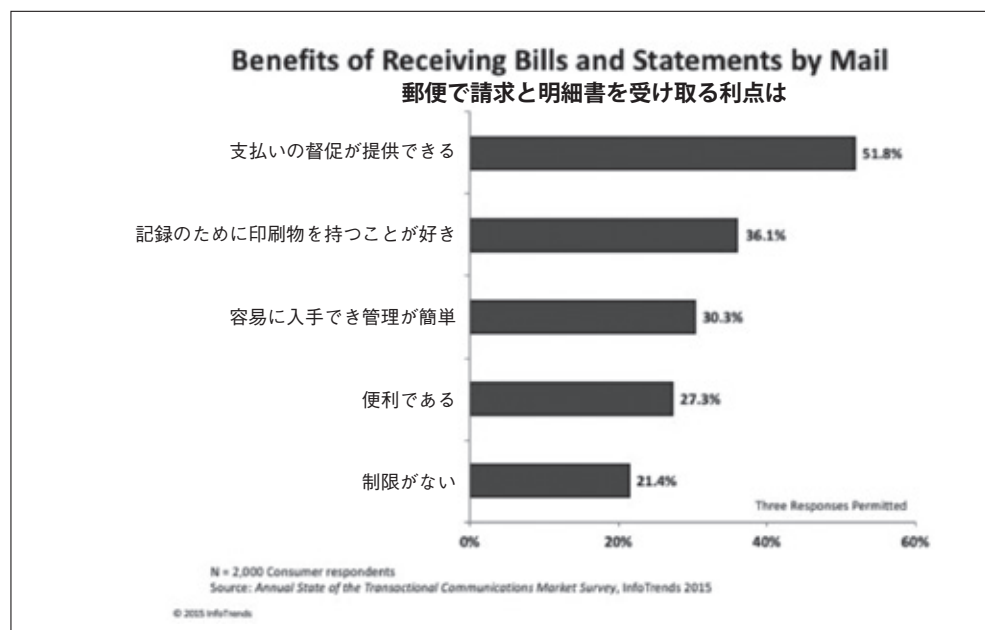
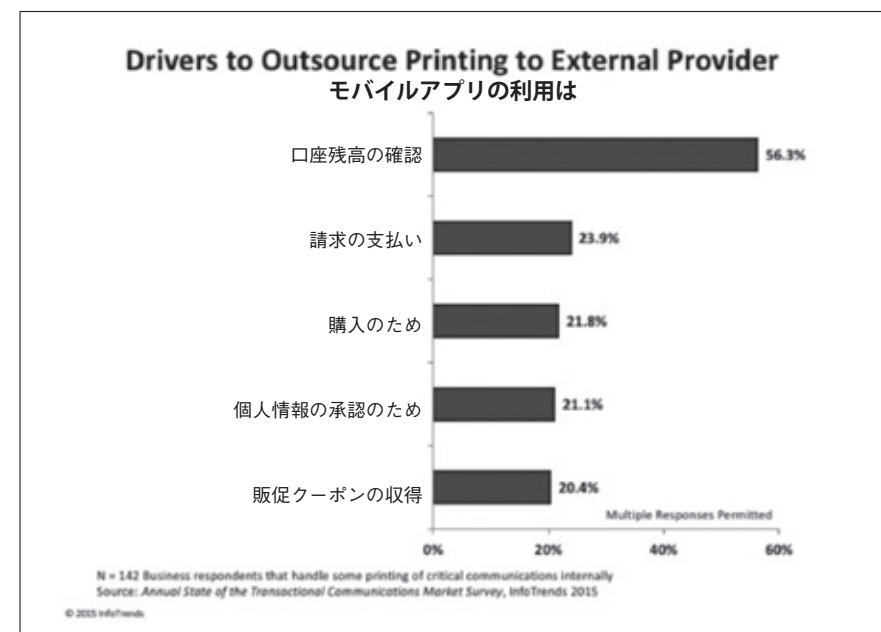


図 2



It's About Optionsそれはオプションだ!

InfoTrendsで経営者にインタビューしてみると、彼らの回答は今まで見てきている業界の流れと一致している。そして、消費者は請求書と支払方法を含めて、あらゆる選択肢があることを望んでいることが明らかになっている。すでに、多くの消費者はモバイルのアプリを利用して請求金額を支払っている。回答者がモバイルアプリで請求/明細の閲覧サイトにアクセスしているもっとも多い理由は、支払い口座の残高と、請求支払についての確認である。

For which of the following purposes do you primarily use mobile apps from your providers?

上記の理由の中から、モバイルアプリを利用する主な理由は何ですか？ (図2)

InfoTrendsの調査に基づくと、顧客を満足させるためには、各種の請求書と支払のオプションを提案せねばならない。我々が話を聞いたほとんどの経営者が語った重要な事項は、請求や支払のコスト管理よりも、顧客満足の方が重要だと話していた。

トランザクション印刷 社内生産 対 外部委託

もし、トランザクション印刷を社内工場で行うか、外部委託をするかを悩んでいるのであれば、自社の優先順位を考えていただきたい。あなたがこの判断をする時に懸念する点は、印刷から電子化への移行、製造コスト、セキュリティ、マーケティング、刻々と変化する政府規定の変更でしょうか？

InfoTrends 2015年、年間トランザクション印刷調

査において、印刷を外部委託にするか否かの決定に影響を与える要素を質問している。その回答の上位は、より良い価格、セキュリティとコンプライアンス、最新で最善の技術が利用可能、といったものがあつた。

Which of the following drivers might influence your decision to outsource printing to an external provider IN THE FUTURE

上記の要因のうち、将来 印刷を外部委託する決定に強い影響はあるのはどれですか？ (図3)

外部委託が経営の傾向となっているが、社内工場での生産を継続する強い理由も存在する。InfoTrendsの2014年のレポート、米国ドキュメントアウトソーシング市場予測：2014-2019は両方の視点から議論している。

社内工場でのトランザクション印刷に影響ある主要な傾向としては？

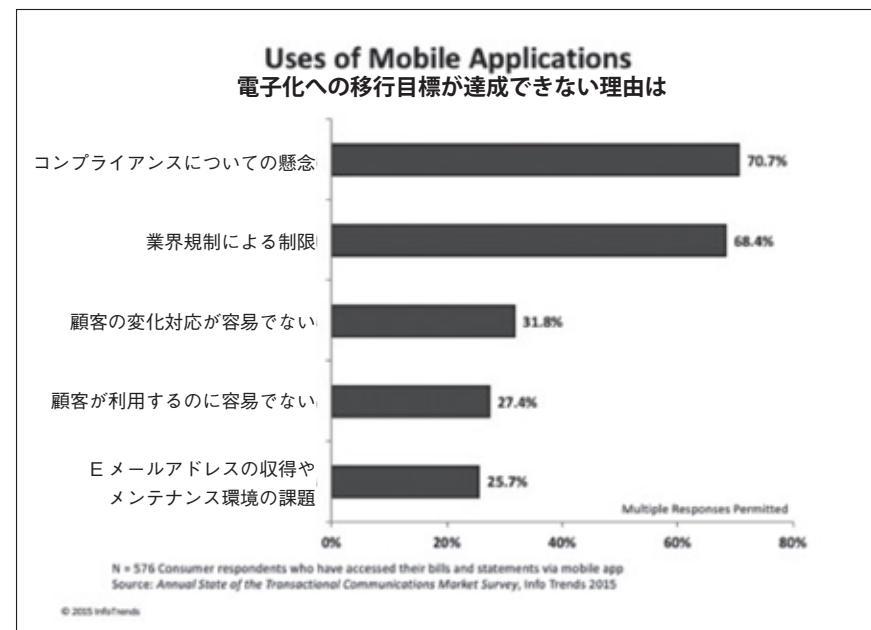
印刷量の減少：継続して続く電子配信への流出。印刷サービスからの売上の減少。

社外工場での生産への興味の高まり：必要スペースの確保と、新技術の獲得のため、企業は印刷サービスを社外の印刷工場へ移行することをますます検討している。

社外でのトランザクション印刷に影響を与える主要な傾向は？

顧客あたり売上高の減少：印刷会社から見た顧客あたりの売上は、価格の下落によって減少している。

図 3



それにも関わらず業界によっては生産能力を増加している印刷会社が存在し、価格競争による減収を、より多くの顧客を獲得することで埋め合わせをしている。

規制とコンプライアンス：企業にとっての最大の課題のひとつが、規制とコンプライアンスを正しく守ることにある。コンプライアンスを守るために、企業は外部委託への傾向を強めている。

公的規制とコンプライアンス

公的規制とコンプライアンスの複雑な役割への考察を抜きに、トランザクション書面、社内生産、外部委託について語ることはできない。公的規制は行ったり来たりしており、書面の印刷を増やしたり、減らしたりしている。しかもこれらの影響は、必ずしも期待に沿ったものとは限らない。

例えばGlass-Steagall法（商業銀行の有価証券の取扱い、ならびに商業銀行と証券会社の提携の制限を目的とする）は、印刷と郵送を減少させることが期待されました。しかしながら抜け穴があり、貯蓄貸付銀行と証券会社は独自の商品を作ることができ、それによってマーケティング資料は増加した。最新の脅威はSEC（証券取引委員会）Rule 30e-3の動きであり、それは投資会社が株主報告書と四半期報告書を、印刷物の郵送ではなくWebサイトで行うことを可能にしたと発表したことだ。

未知なる規制とコンプライアンスによる興味深いもうひとつの結果は、印刷から電子化への移行に成功した会社の減少である。InfoTrends 年間トラン

ザクション市場調査によれば、コンプライアンス上の懸念と、業界規制が、電子化への移行を困難にする最大の要因であった。

Why aren't you achieving your paperless adoption targets

電子化への移行が目的を達成できない理由は？

結論

他の分野でも同じだが、我々 InfoTrendsは外部委託と社内生産について2つの異なる視点から見ている。一方では、トランザクション書面を顧客に送付する企業幹部と、受け取る顧客について研究を行うチームがあること。他方ではトランザクション書面の印刷を引き受けている会社の実作業において、常にともにあるコンサルタントを多く抱えていることである。これによって360度で市場を見渡すことができる。

我々の経験によれば、社内印刷を行っている何社かは、大きな企業の重要な一部と考えられている。同時に、企業は中核事業に集中し、その母数に関わりのないサービスを外部委託するという経営の傾向も存在する。企業がどこでこの連鎖に落とし込むかは、下記のどこの分野に比重を置くかによっている。それは、製造コスト、セキュリティ、電子化への移行、印刷量の減少、マーケティング機会、そして、公的規制である。

PODi JAPAN

書籍紹介

JAGAT「印刷白書2015」を刊行

変革の時代の印刷メディア産業をナビゲートする印刷業界で唯一の白書

1部「特集」では、「マーケティング発想によるデジタルメディアビジネス」をテーマとしています。ジョー・ウェブ博士の『未来を創る』をベースに、マーケティングオートメーションを始めとするデジタルマーケティングの課題に取り組んでいます。

2部「印刷・関連産業の動向」、第3部「印刷産業の経営課題」では、社会、技術、産業全体、周辺産業という様々な観点から、ビジョンを描き込み、今後の印刷メディア産業の方向性を探っています。印刷メディア産業に関連するデータを網羅し、UD書体を使った見やすくわかりやすい図版を多数掲載しています。

刊行日：2015年10月9日

発行：公益社団法人 日本印刷技術協会

定価：9,167円（税別）



B to Bのためのマーケティングオートメーション

正しい選び方・使い方 日本企業のマーケティングと営業を考える

マーケティングオートメーション(MA)という言葉が流行っています。しかし、それは何のために生まれ、どう活用され、企業戦略の何を変えるのか、という本質はあまり語られていません。この本は、その本質を解き明かし、日本企業がこのMAを基点にしたデマンドセンターを構築し、「引合い依存」から脱却することを願って書いたものです。我々は今、日本のBtoBマーケティングの夜明けに立っています。「いま、変わらなければいけない」と考える方々へ贈るマーケティング最前線からの提言です。そして、我々に前へ進む勇気を与えてくれる1冊です。

刊行：2015年9月18日

著者：庭山 一郎

出版：翔泳社

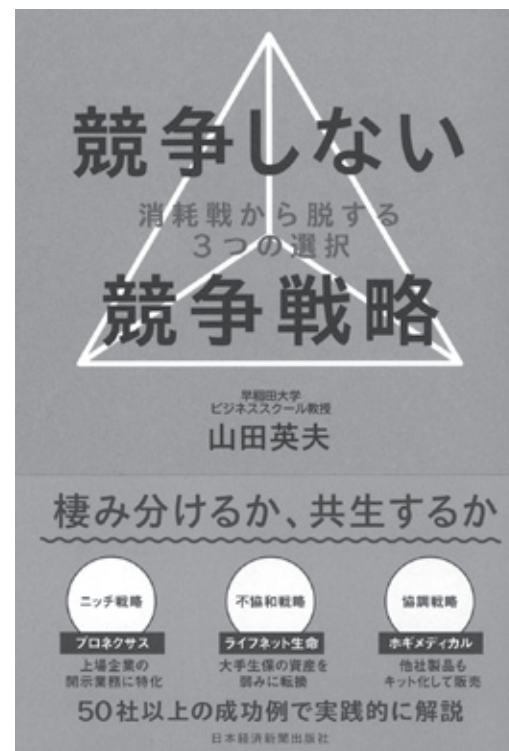
定価：1,980円（税別）



競争しない競争戦略 消耗戦から脱する3つの選択

国内では激しい競争で疲弊し、グローバルでは新興国企業にコスト競争をしかけられ、利益率の低下に悩んでいる。どうすれば薄利の奪い合いから脱却できるのか。やみくもに売上やシェアを増やさなくても、競争しない状態を作ることによって、利益率は高められる。本書はその戦略を、50社以上の企業事例をもとに、実践的に解説する。「競争しない」ためには、業界のリーダー企業と「棲み分ける」か「共生すること」が必要である。その具体的な方法として、①「ニッチ戦略」、②「不協和（ジレンマ）戦略」、③「協調戦略」の3つに整理し、各々について新たな戦略を考えるためのマトリックスを示して説明している。我々に「戦わずして勝つ」という新たな視点を示唆する良書である。

刊 行：2015年3月18日
著 者：山田 英夫
出 版：日本経済新聞出版社
定 価：1,600円（税別）



21世紀の情報記録をサポートします。

三菱情報記録用紙

三菱NCR紙 三菱IJフォーム用紙 DFカラーM・G
ダイヤフォーム ダイヤメールシリーズ OCR用紙 感熱紙

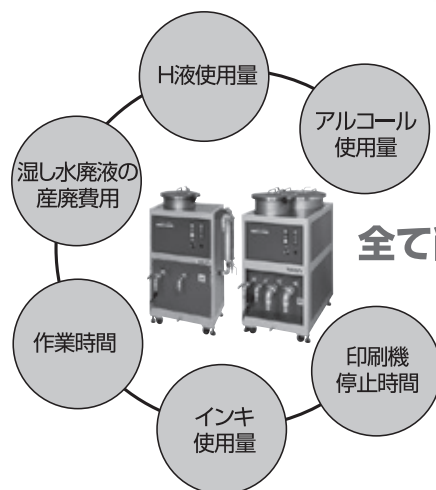
三菱製紙株式会社 洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒130-0026 東京都墨田区南葛2丁目10番14号 南葛シティコア ☎03(5600)1462
大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪府中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

三菱製紙販売株式会社 名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561
本 店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341 東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎022(295)7710
大阪支店 〒541-0056 大阪府中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271 九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531

湿し水濾過装置 エバークリーン

18インチ フォーム 輪転4色機で年間 **100万円** の無駄をしていませんか？

経費削減完璧ですか？もう一度印刷現場の経費削減を考えてみませんか！



まだまだ出来る
印刷現場の経費節減

利益アップ

H液使用量の削減	4,100 円/月
アルコール使用量の削減	3,670 円/月
湿し水廃液の産廃費用の削減	15,000 円/月
印刷機停止時間の削減	56,000 円/月
インキ使用量の削減	16,800 円/月
作業時間の削減	3,000 円/月

※削減合計 - ランニングコスト = コストダウン
98,570 円/月 - 11,548 円/月 = 87,022 円/月
コストダウン合計 = 1,044,264 円/年

計算条件：印刷機12時間/日稼働、水交換2回/月、H液 3%、IPA 5%、産廃処理、作業時間60分

株式会社ニクニ 営業部 印刷グループ 〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地843-5
URL <http://www.nikuni.co.jp> TEL 044-833-1121 FAX 044-833-6482

NIKUNI

NPiフォーム NEXT-IJ α



NEXT-IJの品質特性をベースに、印字濃度、裏抜け、印字耐水性（染料）等を更に高めた新製品です。

今後、幅広い分野に展開が進むと考えられているフルカラーIJ印刷において、IJ用紙に対する要求品質に高いレベルで応えて参ります。

NEXT-IJ α 規格表

連量 (Kg)	〈58〉	〈70〉	〈104〉
坪量 (g/m ²)	67.5	81.4	121.0

日本製紙株式会社

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6（御茶ノ水ソラシティ） Tel.(03)6665-1111